

歴史基礎文化学系 1

科目ナンバリング		U-LET23 26601 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(日本史学)(講義) Japanese History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		吉川 真司 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代史通論									
【授業の概要・目的】											
<p>日本古代史のうち、文献史料による研究が十分可能な3～11世紀、すなわち倭国時代から平安時代 摂関期までの歴史を通観する。いくつかのテーマを設定し、新しい研究や新しい史料を紹介しながら、 近年の日本古代史研究では何が明らかにされてきたか、いかなる方法が用いられてきたかを述 べる。列島社会に政治的なまとまりが生まれ、中央集権国家「日本」が誕生してくる歴史、それが 段階的に変容していく歴史を跡づけることにより、日本の社会・国家・文化の古層に関する豊かな 認識を得ることを目標としたい。なお、本講義で扱う時代幅はいささか限定的であるが、その前後 の時代を幅広く見通し、また日本史一般を理解する上で必要な知識・方法を述べるものであって、 日本史学全体についての研究入門と位置づけている。</p>											
【到達目標】											
<p>日本史、特に古代史に関する基本的な知識を身につけるとともに、歴史を認識・再構成するための 方法について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、理解度に応じて詳しく説明したり、 新しい発見を紹介することなどもあるため、各テーマの内容・回数・順序については柔軟に考える ことにする。</p>											
<p>第01回 序説：日本史・日本古代史の領域 第02回 邪馬台国 第03回 初期の倭王権 第04回 タニハの大県主 第05回 ホムタワケの登場 第06回 ワカタケル大王の時代 第07回 秦氏のヤマシロ移住 第08回 オホド大王の新王朝 第09回 仏教伝来 第10回 聖徳太子の実像 第11回 二つの王家 第12回 大化改新と難波宮 第13回 律令体制の形成とユーラシア 第14回 公民制と調庸制 第15回 方格と直線の地割 第16回 古代仏教のネットワーク 第17回 天平の疫病大流行 第18回 黄金郷の原像 第19回 女性天皇と太上天皇 第20回 交野行幸と百濟王氏</p>											
----- 系共通科目(日本史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(日本史学)(講義)(2)

- 第21回 古代王宮の変貌
第22回 承和の転換
第23回 古代荘園
第24回 楽舞と和歌
第25回 古代末期の地方寺院
第26回 摂関政治と貴族社会
第27回 国風文化
第28回 女真海賊事件の前後
第29回 古代から中世へ
第30回 総括：世界史の中の日本古代史

【履修要件】

高等学校等で「日本史B」を履修したこと、もしくはそれと同等の学力を有すること。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

毎回の小レポート(30点)、期末レポート(1回、70点)により評価する。
ともに到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

吉川真司『シリーズ日本古代史3 飛鳥の都』(岩波新書)ISBN:978-4004312734

吉川真司『天皇の歴史2 聖武天皇と仏都平城京』(講談社学術文庫)ISBN:978-4062924825

【授業外学習(予習・復習)等】

講義で基本史料や参考文献を示すので、できるだけ読んでおくことが望ましい。
講義でふれた遺跡・史跡については、できるだけ見学することが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 2

科目ナンバリング		U-LET23 36630 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		吉川 真司 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時間	金5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ウチツクニの地域社会と古代寺院									
【授業の概要・目的】											
<p>日本古代王権の基盤となった地域は、かつてウチツクニ（内なる領域）と呼ばれていた。この地域は倭国・古代日本国の政治・経済・文化の中心をなしたため、社会の様相も列島の他地域とはおのずから異なるところがあった。本講義では、ウチツクニの地域社会の特質を、とりわけ古代寺院に注目することによって明らかにし、日本古代史を実態的に理解しようとする試みである。</p> <p>ウチツクニについては、それが律令体制下の畿内と同一のエリアであるとし、畿内の王族・豪族が全国支配を行なったと主張する「畿内政権」論がある。しかし、地域社会に深く分け入ってみれば、この学説がきわめて皮相的なものであることは明らかであり、畿内よりも広いウチツクニのまともりは、大化前代から平安時代まで生命を保ち続けたことが知られる。本講義では、さまざまな史料を活用し、長い時間幅をとって歴史を理解することの重要性を提示する。</p>											
【到達目標】											
日本古代史に関する基本的事項と研究方法を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、理解度に応じて詳しく説明したり、新しい発見を紹介することなどもあるため、各テーマの内容・回数・順序については柔軟に考えることにする。なお、これらの週数には休日に実施する現地見学を含み、その際には平常授業を振り替える。</p> <p>01～03週 ウチツクニとその空間 04～06週 「畿内政権」論批判 07～09週 大化前代のウチツクニ 10～12週 律令体制下のウチツクニと「仏都圏」 13～15週 律令体制の解体とウチツクニ 16～18週 地域社会の実像(1) 河内国交野郡 19～21週 地域社会の実像(2) 大和国広瀬郡 22～24週 地域社会の実像(3) 伊勢国多気郡 25～27週 地域社会の実像(4) 播磨国飾磨郡 28～30週 地域社会の実像(5) 近江国浅井郡</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

年度末レポートの内容によって評価する。レポートの評価はオリジナリティを重視し、素点（100点満点）の絶対評価で評点する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

配付資料などに基づき、講義内容の理解を深める。

（その他（オフィスアワー等））

現地見学を行なうので、学生教育研究災害傷害保険に必ず加入しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 3

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 谷川 穰 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代日本形成期の社会史研究									
【授業の概要・目的】											
<p>明治初年、養豚による「富国」論を華々しくかけて活動し、夢破れた人物がいた。ほとんど忘却されているその人物の思想と活動、その影響を一つの軸として、近代社会形成期の歴史的様相を探ってみたい。むろん豚をめぐるトリビア・こぼれ話を開陳するものではなく、文化・環境・軍事・貧困・教育・宗教など多様な論点をすえて講義する。「文明開化」像の再考などにも議論は及ぶであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>近代日本社会の形成・変容の歴史に対する理解を深め、視野を広げられるようになる。また多様な史料（未刊行の手稿史料も含む）を用いて実証的に論じる歴史学の手法を習得するとともに、歴史研究の対象と自己との関係がいかにあるべきかを、重層的に考えられるようになる。さらに、講義内容を批判的に再考することで、自らの問題意識を反映した論文作成の基礎能力を得ることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回はイントロダクション、最終回（15回目）は「まとめ」。以下のトピックを受講生の理解度も勘案しつつ各1～2回講じる予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕末までの豚と社会 ・養豚結社・協救社の成立 ・『協救社衍義草稿』の国益論 ・京都の両替商と協救社の活動 ・「文明開化」論における協救社の位置 ・学校教育における豚 ・軍隊・部落問題と豚肉 ・事業としての養豚と学知 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>期末のレポート（70%）と授業中に実施予定の小レポート（30%）で総合的に判断する。レポートにおいては、自らの見解を論理的、ないし歴史学的手法に即して実証的に論じることができているかを評価基準とする。</p>											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義) (2)

[教科書]

授業に際してはハンドアウト・史料プリントを配布する予定である。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

受講生が各自の興味関心にしながら独力で考え実践する。ただし授業において参考文献も示すので、適宜それを読み、自らの考えを深めるよすがとしてもらえればと思う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 4

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世武家社会研究(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>近年の日本近世政治史研究は、史料批判をしつつ、一次史料にもとづいて政治過程を描き出す手法が求められる段階に到達している。従来の通説的理解を一次史料を駆使して塗り替えつつ、新たな方法論と論点を獲得する過程を示すことで、日本近世史研究の基礎的方法と面白さを示したい。今年度は、近世前期の徳川政権による武家編成をテーマとして、特に譜代大名に着目して論じる。具体的な史料を示し、その解釈を説明しながら論じていくことになる。知識ではなく、授業を通して示される研究手法をこそ学んでもらいたい。</p>											
【到達目標】											
<p>近世前期の政治史・武家社会に関する史料を読み解くための基礎的能力を獲得する。期末には、自分なりに、個別の史料をとりあげ、読み込んでレポートを作成できるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下に示したテーマ・回数・順番については固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況、また、担当者の研究進展状況や学界動向に伴い、変更がありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 近世武家編成を考えるために 【1週】 2. 「大名」の成立過程と類別【2週】 3. 武家諸法度の再検討【2週】 4. 「国持」概念について【1週】 5. 「譜代」概念について【3週】 6. 「譜代」と「物頭」の政治的位置【2週】 7. 「物頭」研究の射程と展望【3週】 8. まとめと総括【1週】 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末レポートで評価する											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考文献を読むほか、自分で史料をとりあげて分析し、レポートを作成する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 5

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		元木 泰雄 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	武士政権成立史論										
【授業の概要・目的】											
武士政権成立史論III											
<p>平治の乱から平氏政権の成立に至る、武士を中心とした政治史を論じる。</p> <p>武士政権の樹立については、いまだ貴族と武士の対抗関係を基軸にした理解が横行している。また平安後期の武士像は、旧態依然とした領主制論に基づくものや、一面的な職能をのみを強調するものが目につく。</p> <p>今期の授業では、平治の乱後から源平争乱にいたる伊勢平氏の動向を中心に、武士と王権との関係にも論及し、上記のような理解の克服を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>これによって、当該期の政治情勢に関する認識を深め、武士政権成立に至る新たな歴史像を理解する。通説を克服する学問的な営為・方法を習得する。</p> <p>また、政治史のありかた、その分析の方法と、意味を学ぶ。</p> <p>あわせて関連史料（主に日記・古記録・軍記）を配布し、史料読解力を高めるとともに、史料批判の方法を学習する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>主要なテーマは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．平重盛論 2．平氏政権の成立 3．王権守護の武力 <p>以上のテーマを4・5回に分けて説明する。 フィードバックは授業中に指示する。 毎回史料を配布し、出席者に読み下してもらう。</p>											
【履修要件】											
一定程度の漢文読解力を前提とする。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
定期試験。100%。ただし欠席は減点対象とする。欠席5回以上の者は単位を認めない。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

毎回、史料を掲載したプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考文献に必ず目を通しておくこと。
極めて専門性の高い授業であるから、前提となる研究に関する知識は理解のために必須である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 6

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		元木 泰雄 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		武士政権成立史論									
[授業の概要・目的]											
武士政権成立史論IV											
<p>本講義では、鎌倉幕府の創設に関する諸問題を取り上げる。とくに、拳兵から東国武士を組織した頼朝と、京や西国で活躍した義経のそれぞれの役割、対立を分析する。これらを通して、武士政権と王権との関係、主従関係や鎌倉幕府における将軍（鎌倉殿）の権力の実態を解明する。そして、武士政権や、その成立の意義を明らかにする。</p>											
[到達目標]											
<p>この授業によって、当該期の政治情勢に関する認識を深め、中世成立期の新たな歴史像を理解する。また、政治史のありかた、その分析の方法と、意味を習得する。</p> <p>あわせて関連史料（主に日記・古記録・軍記）を配布し、史料読解力を高めるとともに、史料批判の方法を学習する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>主要なテーマは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．頼朝軍の上洛 2．延慶本『平家物語』にみる源義経 3．鎌倉幕府将軍権力論 <p>各テーマについて、4～5回に分けて論じる。 フィードバックについては授業中に指示する。 毎回史料を配布し、出席者に読み下しを担当してもらう。</p>											
[履修要件]											
一定の漢文読解力を前提とする。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
定期試験100%。但し欠席は減点対象とし、欠席5回以上の者には単位を認めない。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

毎回漢文史料を掲載したプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考文献に必ず目を通しておくこと。
極めて専門性の高い授業であるから、前提となる研究に関する知識は理解のために必須である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 7

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		岩城 卓二 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		代官所役人の世界									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、江戸幕府の直轄領を支配する代官所において、支配の実務を担った手付・手代の仕事・生活・人脈について講義し、近世社会における下級武士の世界から近世の身分を考える。対象とするのは、石見大森代官所の手付・手代である。</p>											
【到達目標】											
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>1 , 石見大森代官所 (1~3回) 幕府直轄領 代官 組合村 御用請負人</p> <p>2 , 水野正大夫の人生 (4~7回) 手代とは 手代から手付へ 武功 手付から勘定所役人</p> <p>3 , 代官所役人の人脈 (8~14回) 御用請負人との関係 下級武士としての人脈</p> <p>4 , まとめ (15回) フィードバック方法は別途連絡。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート 学期末1回											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
授業中指示する文献の精読、史料解釈											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系 8

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 福家 崇洋 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本社会運動史									
【授業の概要・目的】											
日本の社会運動史について講義を行う。時期は、明治期から敗戦後までである。本講義の目的は、近現代日本の社会運動に関する通史的な知識を提示することである。あわせて、日本史・日本思想史において社会運動とその思想が果たした役割を理解することを目指す。本講義への参加によって、日本近現代史をより複合的・重層的に捉える視点を育んでくれるとありがたい。											
【到達目標】											
日本近現代史における社会運動の意義を理解し、基本的な知識を習得することができる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 自由民権運動 3 「初期社会主義」と労働運動 4 アジア主義と対外硬運動 5 2つの戦争と「大正デモクラシー」 6 コミンテルンの結成と日本社会主義運動 7 国家改造運動 8 無産政党と社会民主主義の形成 9 総力戦とクーデター未遂事件 10 満洲事変と「転向」 国家社会主義の台頭 11 昭和維新運動 テロと叛乱未遂 12 天皇機関説事件と宗教運動 13 反ファシズム統一戦線 14 占領下の民主化運動 15 まとめ <p>なお、授業の進行速度により内容に変更あり</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業中の小レポートと期末レポート、平常点等により総合的に判断する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

各回のテーマに関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 9

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 杉本 一樹 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		正倉院文書の理解と研究									
【授業の概要・目的】											
日本古代史の重要史料として知られる正倉院文書は、八世紀に、一定の目的をもって紙に書記された現品が、その後地上に伝存した大規模な資料群である。時代の骨組みを通時的・共時的に表現する六国史・律令格式のような包括的・体系的史料に、正倉院文書は具体性に富んだディテールを付け加え、内包する豊富な情報に対しては、多面的なアプローチが可能である。この正倉院文書に、主に研究のために向かい合う際に想定される諸問題につき論じる。											
【到達目標】											
(1) 正倉院文書についての基本的事項を理解する。 (2) 従前の諸研究との間の円滑な受信・発信を目指す。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目の順序については、受講者の理解状況や内容の展開を考慮して前後する場合がある。											
第1回 正倉院文書の概要(所在・現況)											
第2回 正倉院文書の概要(入門の方法)											
第3回 正倉院文書の研究資源化(前近代)											
第4回 正倉院文書の研究資源化(近代以降1)											
第5回 正倉院文書の研究資源化(近代以降2)											
第6回 正倉院文書の研究諸分野1(歴史学・古文書学1)											
第7回 正倉院文書の研究諸分野2(歴史学・古文書学2)											
第8回 正倉院文書の研究諸分野3(国文学・国語学・書道史)											
第9回 正倉院文書の研究諸分野4(美術工芸・建築・考古)											
第10回 正倉院文書の主要文書1(律令制公文書1)											
第11回 正倉院文書の主要文書2(律令制公文書2)											
第12回 正倉院文書の主要文書3(写経所文書の諸類型)											
第13回 正倉院文書の主要文書4(写経所文書の構造と機能)											
第14回 総括・補遺											
第15回 期末試験・フィードバック											
フィードバックの方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

成績評価は期末に行う筆記試験による。
4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

必要に応じてプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
杉本一樹『日本古代文書の研究』(吉川弘文館)
必要に応じて授業中に紹介する。

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合博物館 教授 文学研究科		岩崎 奈緒子 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世後期の対外認識 7									
【授業の概要・目的】											
寛政期から文化期にかけての異国船打ち払いをめぐる諸政策において発現する国家領域に対する観 念と対外認識との観念の関係について考究する。											
【到達目標】											
近世後期の国家領域に対する意識が変容する過程を学び、江戸時代の対外関係の段階差に関する基 本的事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目には、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順 序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当 者が適切に決める。											
1．研究史と本講義の視座【2週】											
2．打ち払い前史											
「鎖国」と打ち払い【1週】											
唐船をめぐる取扱【1週】											
林子平にみる境界認識【1週】											
3．寛政期における打ち払いと国家領域											
ラクスマン来航とその対応にみる国家領域観【3週】											
4．文化期における打ち払いと国家領域											
文化露寇事件以降の対ロシア政策にみる国家領域観【4週】											
フェートン号事件にみる国家領域観【2週】											
5．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポート											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に予習・復習すべきポイントを指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 水野 章二 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本中世の環境と災害									
【授業の概要・目的】											
<p>日本の中世がどのような社会であったかを、環境や災害の視点から考える。中世の人々が生きた場を多面的に検討し、生産・生活の具体的な姿やその変化を、人と人の関係だけからではなく、人と自然の関係に比重を置いて明らかにする。環境変化や災害の実態は、文献史料だけからではとらえにくい場合が多いため、さまざまな非文献史料をも活用しながら、総合的に検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>日本中世における民衆の生活環境がどのようなものであったかを理解するとともに、災害の実態やその歴史的特質を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 環境史への視点 環境という視点を組み込むことによって、どのような歴史学が可能になるかを説明する。</p> <p>第2回 中世村落と荘園制 生活の単位である村落と支配・所有の単位である荘園制の関係を整理しながら、中世における変容の過程を解明する。</p> <p>第3回 現地調査と景観復原 民衆の生活実態分析には多様な方法やフィールドワークが不可欠になるため、具体的事例を通じて、村落景観の復原方法について解説する。</p> <p>第4回 村落空間と資源 中世村落の空間構成や資源確保のあり方、村境の意味・儀礼などについて、問題点を整理する。</p> <p>第5回 資源確保と紛争 菅浦などの近江の惣村文書を読みながら、資源確保をめぐる闘う村落の姿を確認する。</p> <p>第6回 琵琶湖の環境変化 湖岸村落は水位変動などによって大きな影響を受けるが、さまざまな環境と生産・生活のあり方について復元的に検討する。</p> <p>第7回 里山の成立 自然の持続的利用や生物多様性保全などの観点から、里山が世界的に注目されているが、歴史学的な実態分析はほとんどなされていない。里山の成立過程を解明する。</p> <p>第8回 里山と生活環境 里山の具体的な姿を明らかにしながら、資源の過剰利用や荒廃の問題を考えるとともに、山野の持つ多様な役割についても検討する。</p> <p>第9回 棚田の開発 棚田は生産性が低く、耕作放棄が進んだが、近年になってその多様な役割や文化的景観としての価値が再評価されている。棚田の実態と性格を歴史学的に明らかにする。</p> <p>第10回 中世の災害</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

前近代社会において人々を最も苦しめたのは飢饉と疫病であったが、その前提となった風・水・旱・虫害などの農業災害の実態を整理する。

第11回 水害への対応

科学技術の未発達な中世では、連続堤などの構築は不可能で、水害と共存するより他はなかったが、どのように災害と対応したのかを明らかにする。

第12回 虫害と災害認識

気象条件などによって特定の昆虫が爆発的に増加した時、虫は災害となる。虫の宗教的位置づけなど、古代・中世の虫害対応について解明する。

第13回 風害と季節風

風害の実態を明らかにするとともに、中世後期における気温低下がどのような環境変化をもたらしたかを、飛砂と港湾の立地変化に着目して検討する。

第14回 旱魃と地域権力

特異な権力編成や城館群の形成などで注目されている伊賀・甲賀は、特殊重粘土地帯で旱魃常襲地域という共通性を有するが、その地域的特質を検討する。

第15回 まとめ

中世村落・荘園制が、どのように形成され、変化したかを、広い視点から整理・確認する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

期末レポート70%、授業時の小テスト30%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

文献史学以外に、歴史地理学・考古学・民俗学やその他の関連諸分野の成果を総合しながら、自然的社会的諸条件が中世の村落や荘園、地域社会にどのように関わるのかを考えるため、幅広い関心を持つことが望まれる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36											
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科				非常勤講師 竹永 三男 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		「行き倒れ」の近代史 近代日本における行旅病人・行旅死亡人に関する歴史的研究											
【授業の概要・目的】													
<p>一般に「行き倒れ」と言われる行旅病人・行旅死亡人の救護・取扱については、120年前の明治32年（1899）法律第93号「行旅病人及行旅死亡人取扱法」で規定されている。同法は、若干の文言修正を経て今も現行法として機能しているが、その第一条では、行旅病人・行旅死亡人について、「此ノ法律ニ於テ行旅病人ト称スルハ歩行ニ堪ヘサル行旅中ノ病人ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキ者ヲ謂ヒ行旅死亡人ト称スルハ行旅中死亡シ引取者ナキ者ヲ謂フ」と定義している。</p> <p>本講義の題目である「『行き倒れ』の近代史」とは、この行旅病人・行旅死亡人を歴史研究の対象として正面から取り上げ、近代日本における「行き倒れ」をめぐる問題群 即ち、その実態と属性、市町村における救護・取扱の実際、市町村の救護責任等を規定した法制度の構造とその変遷、「行き倒れ」を生み出す日本社会の特質等々の解明を、全国の県庁文書・町村役場文書の具体的分析によって行うというものである。講義では、その分析の実際を関係史料を提示しつつ具体的に提示する。また、受講生にも、講義で提示する関係史料に基づいて、行旅病人・行旅死亡人に関する分析を行ってもらう。</p> <p>以上のことにより、「行き倒れ」という個別的・具体的な事象の分析を通して、日本の近代社会の歴史的特質を究明するという近代史研究の方法とその実際の理解に至ることを目的とする。</p>													
【到達目標】													
<p>「行き倒れ」を素材とした日本近現代史研究、とくに近現代の日本社会と法制度の歴史的研究の視角と方法、「行き倒れ」関係史料とその分析の実際を理解し、実際にぶんせきできるようになることを到達目標とする。</p>													
【授業計画と内容】													
<p>授業計画は次のとおりとするが、実際の授業では、集中講義という授業形態を活かして、各主題を適宜統合・分割して講述する。</p> <p>第1講 はじめに 「行き倒れ」をめぐる問題群とその歴史的研究の課題 第2講 「行き倒れ」関係史料の検討 府県行政文書・市町村役場文書・政府文書・統計資料 第3～6講 近現代の日本における行旅病人救護法制の成立と変遷 1)近世における「行き倒れ」対応 2)「行旅病人取扱規則」「行旅死亡人取扱規則」「行旅病人及行旅死亡人取扱法」 3)府県における「行旅病人救護・行旅死亡人取扱規則」の成立と変遷 4)東京府における「行き倒れ」対応規則の成立と展開 第7～12講 近代日本における「行き倒れ」の実態とその救護 1)行旅病人・行旅死亡人の統計的検討 2)行旅病人の「逋送」「行旅病人及行旅死亡人取扱法」以前の行旅病人救護 3)日露戦後の福島県における「行き倒れ」の様相とその救護 4)市町村役場文書にみる「行き倒れ」とその救護 5)女性と子どもの「行き倒れ」 6)「行き倒れ」人とその病 第13講 「行き倒れ」の救護・対応法制の比較史 植民地下の朝鮮とイングランド</p>													
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----													

日本史学(特殊講義)(2)

第14講 おわりに 「行き倒れ」からみた日本社会の歴史的特質
第15講 受講生による「行き倒れ」分析の発表

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

- 1) 受講生が少人数の場合
中間レポートとその発表 (50点)
最終レポートとその発表 (50点)
 - 2) 受講生が多数の場合
中間レポート (40点)
最終レポート (60点)
- いずれも、講義で提示した分析視角・方法(の批判的検討)に基づいて、受講生が取り上げた史料を精確に分析し、問題を掴み出しているかを評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業題目に関連する主題について、講義担当者(竹永)が発表している研究論文を参考論文とする。論文題目・掲載雑誌等はCiNii等で確認すること。

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で配付する史料を事前・事後に検討すること

(その他(オフィスアワー等))

- 1) 受講生にはレジュメに加え、資史料を配布するが、初回授業の出席者数によりその後の授業用の印刷部数を確定するので、初回授業には必ず出席すること。
- 2) 集中講義のためオフィスアワーは特に設けないので、質問等は各回の授業後に行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 国際文化学研究所 教授 長 志珠絵 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本近代における「戦争」と文化をめぐる諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>19-20世紀の近代国民国家は「国民」形成の中核に「戦争」をめぐる文化装置を必要とした。またこの問題は「国民」をめぐる文化政治と密接に関係するため、植民地支配や総力戦体制下での変容に加え、さらに戦後史への射程を必要とする。戦争認識をめぐる文化研究、社会史研究、ジェンダー研究などの方法論や、帝国と戦後を架橋する空襲・防空研究典型的な歴史事象から事例を取り上げ史料論としても言及しながら、19世紀末から1970年代にいたる戦争と文化をめぐる諸問題を考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>日本近代における戦争と文化をめぐる研究上の成果や論点、史料状況について具体的な知識を獲得するとともに、研究方法や分析視点を習得することで、近い過去の論争的課題についての考察力を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>*各項目の講義の回数は固定したのではなく、講義の進行状況や受講者の理解の程度に応じて、変動することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導入-戦争の想起と文化をめぐる研究動向 2 「国民化」の時代と「戦争」メディア<2回> 3 戦争と歴史をめぐる展示と同時代教育<2回> 4 「国民」とは誰か？-兵士のジェンダーと植民地支配<2回> 4 防空言説と国民像の変容<3回> 5 占領と戦争経験・戦争像<2回> 6 戦後史のなかの空襲の記憶と記録<2回> 7 まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業中の発言・コメント紙回答50% レポート又はテスト等50%などを総合的に評価する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示するほか、適宜史料レジюме等を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

各自、授業中に指示した関連文献や配布史料等に目を通しておくこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		高木 博志 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化財と政治									
【授業の概要・目的】											
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>2018年度後期に引き続き、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産の評価をめぐる、あるいは「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録されようとする陵墓問題などにみられるように、密接に政治と関わっている。</p> <p>明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。こうした日本の文化財の有り様を、近現代を通じて考えてゆきたい。前期においては、明治維新から明治期を中心に論じたい。</p>											
【到達目標】											
<p>注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 天皇制と文化財 ・ 日本的な文化の語り ・ 明治維新と桜 ・ 近現代の桜 ・ 廃仏毀釈と文化財の破壊 ・ 古都奈良の明治維新 ・ 古都京都の明治維新 ・ 1880年代の古社寺や旧跡の保存 ・ 京都御所から京都御苑へ ・ 明治維新と陵墓 ・ 正倉院御物の成立 ・ フェノロサ・岡倉天心の活動 ・ ポストン美術館と日本美術 ・ 臨時全国宝物調査、古社寺保存法 ・ 「日本美術史」と文化財保護 ・ 帝室博物館と古都奈良・京都 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

高木博志 『近代天皇制と古都』(岩波書店)

【授業外学習(予習・復習)等】

京都において、「文化財と政治」に関わる巡見を希望者で行う。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		高木 博志 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化財と政治									
【授業の概要・目的】											
<p>2018年度後期に引き続き、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産の評価をめぐる、あるいは「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録されようとする陵墓問題などにみられるように、密接に政治と関わっている。</p> <p>明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。こうした日本の文化財の有り様を、近現代を通じて考えてゆきたい。後期においては、20世紀を中心に論じたい。</p>											
【到達目標】											
<p>注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 天皇制と文化財 ・ 史蹟名勝天然記念物と20世紀の文化財行政 ・ 吉野山・奈良公園の近現代 ・ 嵐山・嵯峨の近現代 ・ 神苑の形成（伊勢神宮・明治神宮・橿原神宮） ・ 黒板勝美とハイマートシュツ（郷土色保存） ・ 帝国における文化財 ・ 近現代の陵墓 ・ 国民道徳と南朝史蹟・赤穂浪士の史蹟 ・ 内務省と国立公園 ・ 国宝保存法と文部省の文化財行政 ・ 紀元2600年事業と神武天皇聖蹟調査 ・ 伝説・物語と文化財 ・ 戦後改革と文化財の誕生 ・ 世界遺産と日本の文化財保護法 ・ 近代化遺産と陵墓の世界遺産登録問題 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

今尾文昭・高木博志編 『世界遺産と天皇陵古墳を問う』(思文閣出版)

【授業外学習(予習・復習)等】

奈良において、「文化財と政治」に関わる巡見を希望者で行う。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 教授 文学研究科		西山 伸 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代日本大学史									
【授業の概要・目的】											
本講義では、1950年代から現在までの日本の大学の歴史を主な対象とする。現在の大学制度のもととなった戦後改革を踏まえ、高度経済成長、大学紛争、そして近年の大学改革までの時期における大学について、資料にもとづき実証的に検証する。その上で、戦後日本にとって大学はどのような役割を果たしてきたのか、現在の大学が歴史的にどのように形成されたのか、などについて考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・戦後改革から現在に至る大学の形成と展開を資料にもとづき理解する。 ・現代日本社会における大学の役割について歴史的視点に立って考察する。 											
【授業計画と内容】											
第1回	ガイダンス										
第2回	戦後高等教育改革										
第3回	1950年代の大学と学生										
第4回	高度経済成長期の大学										
第5回	戦後学生運動の展開										
第6回	大学紛争(1)										
第7回	大学紛争(2)										
第8回	大学紛争(3)										
第9回	高等教育の計画的整備										
第10回	大学紛争後の学生										
第11回	規制緩和路線と大学改革の開始										
第12回	大学改革の展開										
第13回	国立大学法人化										
第14回	現在の大学										
第15回	まとめ(フィードバック)										
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>評価方法：毎回の授業時に提出されるコメントとレポート試験の成績により評価する。</p> <p>評価基準：授業の内容を理解した上で、受講者独自の見解を示すこと。</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で指定する文献・史料等に予習・復習として目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 文学部 教授 庵道 由香 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮近現代史の諸問題									
[授業の概要・目的]											
<p>本講義では、朝鮮半島の近現代史について、特に朝鮮半島と日本との間に生じている歴史葛藤の問題を、具体的な課題ごとにその研究状況や現状と問題点について史料に即して学ぶことを目的とします。</p> <p>近年、東アジアでの人の移動や文化交流が急速に拡大する一方で、日本と韓国・朝鮮・中国との歴史問題をめぐる葛藤が深刻化しています。日本の朝鮮半島植民地支配や中国侵略の歴史に端を発するこの問題は、今後東アジアに関心を持ち学ぼうとする学生にとっては、いずれ直面しなければならない問題でもあります。何が問題になっているのか、事実関係はどうなのか、問題の本質は何かを、史料と研究に即して学び、それをもとに今後どのように解決していくべきなのかを、今後の東アジア関係のあり方とともに共に考えてゆきたいと思います。</p>											
[到達目標]											
<p>朝鮮近現代史の諸問題や研究状況を理解する。 東アジアの歴史葛藤問題について理解し、自分なりの意見を述べることができる。 歴史問題に関わる論点について、事実や資料に即して説明できる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 講義概要(講義の進め方、成績評価、自己紹介など)および概論 2 . 日本と朝鮮半島の歴史葛藤問題を考える 3 . 戦後日韓関係の展開 1 : 日韓相互認識の変遷 4 . 戦後日韓関係の展開 2 : 日韓交渉と日韓条約 5 . 戦後日韓関係の展開 3 : 戦後補償問題の進展 6 . 労働力・兵力強制動員問題 1 : 動員政策の展開と朝鮮社会 7 . 労働力・兵力強制動員問題 2 : 日本における地域運動 8 . 労働力・兵力強制動員問題 3 : 韓国における戦後補償運動の展開 9 . 労働力・兵力強制動員問題 4 : 戦後補償裁判 10 . 労働力・兵力強制動員問題 5 : 近年の状況・まとめ 11 . 日本軍「慰安婦」問題 1 : 「慰安所」制度の構造 12 . 日本軍「慰安婦」問題 2 : 「慰安婦」制度の実態 13 . 日本軍「慰安婦」問題 3 : 「慰安婦」運動の展開 14 . 教科書問題 15 . まとめ <p>講義の進行状況や、受講生の関心によって、講義内容を変更することもあります。</p>											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点(40点)： コミュニケーションペーパー提出、質疑応答などの参加態度などを総合的に評価する。

レポート(60点)： 講義内で取り扱ったテーマ・人物・事件などの中で関心のあるものを一つ選び、レポートを提出すること。2000字以上とし、論文・書籍などの参考文献を必ず3つ以上利用すること。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

講義中に提示する参考文献や資料を、各自の関心に従い読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

状況に応じて、講義内でグループ討論も考えています。積極的な授業参加を期待しています。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 吉江 崇 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代宮廷社会の研究(1)									
[授業の概要・目的]											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。その際、宮廷社会の特質を考える上で重要ないくつかの現象を取り上げ、その内容を検証する。古記録や古文書などの諸史料を読解しながら、課題に取り組む。											
[到達目標]											
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本歴史の発展と内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。											
[授業計画と内容]											
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。ここでは、そうした宮廷社会が存立するための基盤となる秩序や規範に関して、主にその変質に焦点をあてながら検討する。はじめに、宮廷社会における価値意識の変質を錢貨の途絶に関連付けながら考察する。次いで、そうした様相と相即関係にある公家新制の登場を、前代との相違に留意しながら検討する。											
はじめに(第1回)											
1 錢貨の途絶と価値意識の変容(第2回~第7回)											
1-1 問題の所在 日本古代における錢貨											
1-2 乾元大宝の発行											
1-3 錢貨の途絶と沽價法											
1-4 錢貨から「平安貨幣」へ											
1-5 小 結											
2 公家新制の登場(第8回~第13回)											
2-1 問題の所在 律令法と公家新制											
2-2 過差の流行と過差禁制											
2-3 公家新制成立の歴史的位置											
2-4 公家新制の展開と荘園整理令											
2-5 小 結											
おわりに(第14回)											
学習到達度の評価(第15回)											
フィードバックの方法は別途連絡する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

日本史に関する基礎知識があることが望ましい。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

学期末に到達目標に即したレポート課題を提示し、そのレポートの内容により成績評価する。レポートの評価はオリジナリティを重視し、素点（100点満点）の絶対評価で評点する。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 吉江 崇 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時間	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代宮廷社会の研究(2)									
【授業の概要・目的】											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。その際、宮廷社会の特質を考える上で重要ないくつかの現象を取り上げ、その内容を検証する。古記録や古文書などの諸史料を読解しながら、課題に取り組む。											
【到達目標】											
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本歴史の発展と内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。ここでは、国家統治と密接に関係する宮廷社会の意志決定の様相に関して、主にその変質に焦点をあてながら検討する。はじめに、平安中期における意志決定のあり方を勅申制度と関連付けながら考察する。次いで、意志決定の代表である公卿議定制について、陣定(仗議)とその他の議定との関係性に着目しながら検討する。											
はじめに(第1回)											
1 平安中期における意志決定の変容(第2回~第7回)											
1-1 問題の所在 先例を重視する時代											
1-2 意見封事の登場											
1-3 外記勘文と文殿勘文											
1-4 明法博士・明経博士の存在意義											
1-5 小 結											
2 摂関政治の展開と公卿議定制(第8回~第13回)											
2-1 問題の所在 論奏から陣定(仗議)へ											
2-2 陣定(仗議)の成立にみる公卿の変質											
2-3 訴訟の増加と陣定(仗議)											
2-4 院評定制の評価をめぐって											
2-5 小 結											
おわりに(第14回)											
学習到達度の評価(第15回)											
フィードバックの方法は別途連絡する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

日本史に関する基礎知識があることが望ましい。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

学期末に到達目標に即したレポート課題を提示し、そのレポートの内容により成績評価する。レポートの評価はオリジナリティを重視し、素点(100点満点)の絶対評価で評点する。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 2 0

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学 文学部 准教授 梅田 千尋 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世宗教社会史の論点									
【授業の概要・目的】											
日本近世社会において宗教組織はいかなる存在であり、どのような影響力を持ったのか。また、その形態にはどのような変動が見られたのか。本年度は、近世の朝廷社会と宗教組織（神道・陰陽道・修験道）の関わりに着目し、幕藩体制下における宗教秩序の変容をたどる。とくに近世における陰陽道組織の変容と消滅という歴史事象を通じて近世社会の変容について考察する。なお、京都大学近辺での現地踏査も予定している（1～2回）。											
【到達目標】											
講義での史料読解と分析を通じ、受講生自身が、歴史的事象を評価・考察する力を身につける。また、講義で身につけた知識を、現代の事象や他の時代の出来事と結びつけて考える応用力を身につける。											
【授業計画と内容】											
1.導入 2.朝廷社会と宗教組織〔2週〕 3.近世の宗教政策〔2週〕 4.宗教組織の変容と朝廷社会 5.近世の陰陽道組織〔2週〕 6.曆制と陰陽道〔2週〕 7.陰陽道の変容〔3週〕 9.まとめ 近代化と宗教組織 10.フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業中の発言・コメント紙回答30% レポート70%											
【教科書】											
授業中に指示する 適宜プリントを配布する											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

各自、授業に関わる事項について調べておくこと。また、授業時に指示する予習事項については、文献・論文などに目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー・連絡先等は授業時に連絡します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 2 1

科目ナンバリング		U-LET24 26701 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(東洋史学)(講義) Oriental History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		高嶋 航 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		東アジアの歴史 近代を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>日本、中国、韓国の関係者が編纂した歴史教材『未来をひらく歴史』を題材に、『新しい東アジアの近現代史』を副教材にし、東アジアの近代史を日中韓それぞれの視点から概観し、共通点、相違点を確認したうえで、なぜ相違点が生まれるのかについて考えてみたい。『未来をひらく歴史』が触れない話題も取り上げ、同時に、『未来をひらく歴史』の問題点にも触れたい。後半は中国の現代史について、日中の視点から論じる。</p>											
【到達目標】											
<p>近代東アジアの歴史を当該国である日本、中国、韓国はどのように見ているのか、国境を越えて歴史を共有することは可能なのか。このような視点から近代東アジアの諸歴史を比較検討することで、東アジアの近代と現在についてより深く知るだけでなく、歴史、とりわけナショナルヒストリーについて批判的な視点を養うことを目指す。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、理解度に応じて詳しく説明したり、新しい発見を紹介したりすることもあるため、各テーマの内容・回数・順序については柔軟に考えることにする。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：開港まで 第3回：開国 第4回：日清戦争 第5回：義和団・独立協会 第6回：日露戦争 第7回：朝鮮台湾の植民地化 第8回：第一次世界大戦 第9回：朝鮮の植民地支配 第10回：台湾の植民地支配 第11回：東アジアの民族運動 第12回：満洲事変 第13回：日中戦争(1) 日本側から 第14回：日中戦争(2) 中国側から 第15回：戦時下の台湾、朝鮮、満洲 第16回：戦時下の日本 第17回：日本の敗戦 第18回：戦後の出発 第19回：戦後補償問題 第20回：東アジアの分断 第21回：文革前史 第22回：文革</p>											
----- 系共通科目(東洋史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(東洋史学)(講義)(2)

第23回：改革開放
第24回：天安門事件
第25回：愛国主義の高まり
第26回：北京オリンピック
第27回：中華民族の復興
第28回：慰安婦（1）韓国
第29回：慰安婦（2）中国
第30回：総括

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業中の小レポート（50％）と期末レポート（50％）

[教科書]

日中韓3国共同歴史編纂委員会 『未来をひらく歴史』（高文研）
日中韓3国共同歴史編纂委員会 『新しい東アジアの近現代史』（日本評論社）

[参考書等]

（参考書）

[授業外学習（予習・復習）等]

授業で紹介する文献に目を通し、自分で問題を考えてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 2 2

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		吉本 道雅 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		秦史研究序説									
【授業の概要・目的】											
1970年代以降の簡牘資料の激増により、戦国末期から統一期に至る秦の詳細な実態が解明されつつあるが、睡虎地秦簡以前の秦簡はなお獲得されておらず、それ以外の出土文字資料は零細かつ孤立的である。従って、前3世紀半ば以前の秦史に関する認識は、『史記』になお最も大きく依存している。本講義では、『史記』の秦史記述を批判的に分析しつつ、秦史の推移を概観する。											
【到達目標】											
先秦史研究の最新の知見、および中国古代文献の批判的分析の方法論を習得する。											
【授業計画と内容】											
以下の項目を逐次論ずる。 第1回 序論 第2回～第4回 秦の起源 第5回～第7回 春秋期・戦国前期 第8回～第11回 戦国中期 第12回～第15回 戦国後期・統一秦 *フィードバック方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。											
【教科書】											
講義資料は担当者が準備する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
授業中に別途指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系 2 3

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		吉本 道雅 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		出土文献に基づく春秋史									
【授業の概要・目的】											
春秋史研究の基本史料は『左伝』（前360年代）および『国語』（前3世紀半ば）だが、21世紀に入って、前4世紀後半に遡る戦国時代楚国の竹簡に記された文献が公刊されるようになり、『左伝』を参照した作品や『国語』に類似した作品が多く含まれている。本講義では、これらを読解・分析することによって、戦国時代における春秋史認識の推移を概観する。											
【到達目標】											
歴史ないし歴史書とは何かについて考えるとともに、文献・出土文字資料に関する史料学的研究についての知見を獲得する。											
【授業計画と内容】											
以下の項目を逐次論ずる。 第1回 序論 第2回 鄭武夫人規孺子・鄭文公問太伯 第3回 曹沫之陳・ 第4回 管仲・競建内之 / 鮑叔牙與隰朋之諫・競公瘞 第5回 子儀・子犯子餘・晉文公入於晉 第6回 鄭子家喪・子産 第7回 姑成家父・趙簡子 第8回 越公其事・呉命 第9回 成王為城濮之行・莊王既成 第10回 申公臣靈王・靈王遂申・陳公治兵 第11回 平王問鄭壽・平王與王子木 第12回 昭王毀室・君人者何必安哉 第13回 命・王居・志書乃言・邦人不稱 第14回 東大王泊旱 第15回 結論 * フィードバック方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。

[教科書]

講義資料は担当者が準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 2 4

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中砂 明德 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西洋人の目から見た17世紀前半の東南アジア・インド									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、17世紀前半に東南アジア・インドの各地を訪れた西洋人のうち、フラマン人の商人ジャック・ド・クートレ、スイス人の傭兵エリー・リポンの著作を素材として、交易・軍事の面から当時の東南アジア・南アジア世界とヨーロッパ人の交渉の様態を俯瞰する。</p>											
【到達目標】											
<p>1、17世紀の東南アジア・南アジア史を俯瞰する視野を得られる。 2、17世紀の西洋人旅行記の性格を知ることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1、本授業の位置づけ、旅行記の性格 2、インディアに進出した非ポルトガル人 3、マレー半島 4、シャム 5、フィリピン 6、ビジャープル 7、オルムズ 8、ゴルコンダのダイヤモンド 9、オランダ東インド会社の雇われ外国人 10、バタヴィア 11、マカオ 12、台湾 13、アラビア 14、島嶼世界 15、フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートで評価する。レポートは授業で紹介する関連の書籍・論文を参考にして作成すること。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で指示した参考文献を読むことで、授業内容を確認すると同時に疑問点を見つけ出し、次回の授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中砂 明德 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		アジュダ文書を通じてみた17世紀のマカオ									
【授業の概要・目的】											
<p>現在アジュダ図書館には、かつてマカオのイエズス会が保存していた文書の写しが存在し、17世紀のマカオを知るうえで貴重な史料源となっている。この授業では、まずマカオ関係史料に関する先行研究を整理したうえで、アジュダ文書を用いて17世紀前半とくに1620年代のマカオにおけるイエズス会の活動、マニラとの関係、中国政府との交渉について論じる。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1、マカオに関する先行研究と原史料についての理解が得られる 2、極東のハブとしてのマカオの多面的な性格を把握することができる 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1、導入。マカオとアジュダ文書 2、先行研究1 ボクサー『マカオからの大船』 3、先行研究2 ボクサー『17世紀のマカオ』 4、先行研究3 バレット『マカオ：力と知 17-18世紀』 5、先行研究4 ペネルヴァ・ロウレンソ『17世紀マカオ史の史料』 6、イエズス会のコレジオ 7、イエズス会の巡察師 8、イエズス会とマカオ総督 9、北京への使節団 10、広東人との関係 11、ベトナムへの布教 12、マニラとの関係 13、市民 14、教会 15、フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートで評価する。この授業で紹介する関連研究・史料を参考にして作成すること。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で指示した参考文献を読むことで、授業内容を確認すると同時に疑問点を見つけ出し、次回の受講に備える。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 2 6

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		高嶋 航 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		岡部平太と東アジアのスポーツ									
[授業の概要・目的]											
この講義の目的は、岡部平太を通して東アジアのスポーツの歴史を概観することである。岡部はスポーツの指導者としてのみならず、スポーツの組織者として、日本はもちろん、大連や北京で活躍した人物であるが、嘉納治五郎や岸清一（ともに大日本体育協会会長）ら日本スポーツ界の中心的人物と対立したこともあり、また日本のスポーツ史研究が中国におけるスポーツの歴史に関心をもたず、中国のスポーツ史研究が満洲におけるスポーツの歴史に関心をもたなかったこともあり、岡部の中国大陸での活躍はこれまでほとんど注目されてこなかった。この講義では、岡部の中国大陸での活動を掘り起こすことで、岡部の再評価を試みるとともに、岡部の視点から日本と東アジアのスポーツ史を再構築する。											
[到達目標]											
東京オリンピックが目前に迫り、スポーツへの関心が高まっている。スポーツの世界における日本とアジアの関わりの歴史について学ぶことで、現在のスポーツ、あるいは現在のアジアについてより深く理解することができるようになる。											
[授業計画と内容]											
以下の各項目について講述する。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。 1．生い立ち、アメリカ留学、嘉納治五郎との決別 2．満洲時代 満洲を「日本」のライバルに 3．天津、北京時代 宣撫の手段としてのスポーツ 4．戦後 東京オリンピックに向けて											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
小レポート（40点）、学期末レポート（60点）											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 高嶋航 『帝国日本とスポーツ』（塙書房）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業中に指示する参考書や論文に目を通すこと。 （その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		高嶋 航 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		スポーツから満洲を見る / 満洲からスポーツを見る									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、スポーツという切り口から満洲（中国東北地区）の歴史を概観するとともに、満洲という切り口からスポーツを概観することである。満洲のスポーツはこれまでほとんど研究の対象となつてこなかった。しかしそれはスポーツが満洲で重要でなかったからではない。満洲国は独自の「国民」を持たない国家であり、スポーツはそんな満洲国が「国民」を持つことを対外的対内的に示す手段でもあった。											
【到達目標】											
東アジアでのオリンピック大会が続き、東アジアのスポーツへの関心が高まっている。が、日本ではアジアのスポーツがそれほど理解されているとはいえない。本講義を通じて、満洲、帝国日本、東アジアのスポーツの歴史を学ぶことができる。それによって、東京オリンピック、あるいは日本または世界のスポーツにおける日本の役割をよりよく理解することができるだろう。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．満洲の概況 2．満洲におけるスポーツの始まり 3．満洲におけるスポーツの発展 4．満洲事変とスポーツ 5．満洲国とスポーツ 6．大東亜共栄圏のなかの満洲国とスポーツ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
小テスト（2回、40点）、期末レポート（60点）											
【教科書】											
使用しない											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

高嶋航 『帝国日本とスポーツ』（塙書房）

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に指示する参考書、論文に目を通しておくこと。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36											
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科				浅原 達郎 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		戦国竹書(歴史)											
[授業の概要・目的]													
戦国時代の竹簡に書かれた歴史にかかわる書物を読む。													
[到達目標]													
戦国竹書のなかに歴史物語のおもしろさを読み取る。													
[授業計画と内容]													
<p>ここ数年、戦国時代の竹簡に書かれた書物がつぎつぎと公表され、研究者の注目を集めている。郭店楚墓出土竹書、上海博物館蔵竹書、清華大学蔵竹書などがおもなものである。関連する論文はさながら洪水のようで、学ぶものを途方にくれさせる。この講義では、論文の洪水をうまく避けつつ、竹簡の文章そのものをていねいに読んでいこうと思う。前期はとくに歴史をあつかった竹書を取りあげる。</p> <p>第1回 戦国竹書の概要 第2回～15回 戦国竹書の読解 (上海博物館蔵竹書・昭王毀室、莊王既成、申公臣靈王、 清華大学蔵竹書・楚居、繫年)</p>													
[履修要件]													
特になし													
[成績評価の方法・観点及び達成度]													
平常点													
[教科書]													
使用しない													
[参考書等]													
(参考書) 特になし													
[授業外学習(予習・復習)等]													
戦国竹書を題材にして書かれたものを配布するのでそれを読む。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		浅原 達郎 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		戦国竹書(文学)									
[授業の概要・目的]											
戦国時代の竹簡に書かれた文学にかかわる書物を読む。											
[到達目標]											
戦国竹書のなかに通俗文学のおもしろさを読み取る。											
[授業計画と内容]											
<p>ここ数年、戦国時代の竹簡に書かれた書物がつぎつぎと公表され、研究者の注目を集めている。郭店楚墓出土竹書、上海博物館蔵竹書、清華大学蔵竹書などがおもなものである。関連する論文はさながら洪水のようで、学ぶものを途方にくれさせる。この講義では、論文の洪水をうまく避けつつ、竹簡の文章そのものをていねいに読んでいこうと思う。後期はとくに文学にかかわる竹書を取りあげる。</p> <p>第1回 戦国竹書の概要 第2回～15回 戦国竹書の読解 (上海博物館蔵竹書・采風曲目、李頌、蘭賦、 清華大学蔵竹書・耆夜、赤鵠之集湯之屋、周公之琴舞)</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 特になし											
[授業外学習(予習・復習)等]											
戦国竹書を題材にして書かれたものを配布するのでそれを読む。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		岩井 茂樹 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世東アジアの交易と外交									
[授業の概要・目的]											
<p>中国が近隣地域と交易するさい、安全保障と徴税の確保のため、官府がこれを管理しようとした。宋代以降の市舶司、清代の海関はこの目的を果たすために設置された。また、周辺の諸国においても、体外交を管理する制度が整備されていった。この講義では、このような交易制度に関する資料を読み解きながら、制度変遷の過程を考察する。さまざまな時代の資料についての知識と、それを解読する技能とを高めるとともに、交易の制度や商人の活動、および外交との関わりなどについて、歴史的な理解を深めることを目的とする。</p> <p>前期の授業では、宋代から明初期までの時代を対象とする。</p>											
[到達目標]											
<p>宋代以降の通商・外交についての諸資料の取り扱いに習熟し、さまざまな角度から解釈する能力を高める。とくに、公文書に特有の語彙や文章の構成についての確実な知識を獲得する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>1.市舶司の設置と貿易関係法例：宋会要および宋代の貿易公憑，その他（第1～7週） 2.元の市舶司をめぐる諸問題：元典章および元史食貨志（第8～12週） 3.明代初期の朝貢と海禁（第13～15週）</p>											
[履修要件]											
<p>本特殊講義では史料文献の講読をおこなう。漢文資料について経験のない方にもわかりやすく解説するが、辞書をひいて自分の頭で考えることが求められる。</p>											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
<p>学期末にレポート試験をおこない、成績を評価する。</p>											
[教科書]											
<p>使用しない 資料を配付する。</p>											
[参考書等]											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
[授業外学習（予習・復習）等]											
<p>資料を配付するので事前に目を通しておくこと。</p>											
（その他（オフィスアワー等））											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36											
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科				岩井 茂樹 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		近世東アジアの交易と外交											
[授業の概要・目的]													
<p>中国が近隣地域と交易するさい、安全保障と徴税の確保のため、官府がこれを管理しようとした。宋代以降の市舶司、清代の海関はこの目的を果たすために設置された。また、周辺の諸国においても、体外交を管理する制度が整備されていった。この講義では、このような交易制度に関する資料を読み解きながら、制度変遷の過程を考察する。さまざまな時代の資料についての知識と、それを解読する技能とを高めるとともに、交易の制度や商人の活動、および外交との関わりなどについて、歴史的な理解を深めることを目的とする。</p> <p>後期の授業では、明代永楽年間から明末期までを対象とする。</p>													
[到達目標]													
<p>宋代以降の通商・外交についての諸資料の取り扱いに習熟し、さまざまな角度から解釈する能力を高める。とくに、公文書に特有の語彙や文章の構成についての確実な知識を獲得する。</p>													
[授業計画と内容]													
<ol style="list-style-type: none"> 1. 明代の朝貢貿易と市舶司の性格について（第1～4週） 2. 海禁の弛緩と広州における課税貿易の制度（第5～8週） 3. 倭寇問題と福建の海禁緩和（第9～12週） 4. 日本への「通番」（第13～15週） 													
[履修要件]													
<p>本特殊講義では史料文献の講読をおこなう。漢文資料について経験のない方にも解りやすく解説するが、辞書をひいて自分の頭で考えることが求められる。</p>													
[成績評価の方法・観点及び達成度]													
<p>学期末のレポート試験によって成績を評価する。</p>													
[教科書]													
<p>授業中に指示する 教材は当方で用意し配布する。</p>													
[参考書等]													
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>													
[授業外学習（予習・復習）等]													
<p>配布した資料にあらかじめ目を通し、釈読できない箇所など問題点を把握しておき、講義のなかでその問題が解決されなければ質問をすること。</p>													
（その他（オフィスアワー等））													
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>													

歴史基礎文化学系 3 2

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 文学研究科		辻 正博 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		唐代制度史関係資料の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>古代日本にも多様な形で影響を与えた唐代の諸制度については、これまで膨大な研究の蓄積がある。ところが、そうした制度史研究の根底をなす「史料」じたいについては、必ずしも十分な注意が払われてこなかった。この講義ではまず、唐代制度史関係資料の中から正史・資治通鑑・政書・詔勅・類書を中心に重要なものを選び、現在「通行本」とされているテキストについて、どのような経緯でその地位を得たのか、今なお通行本として用いるのが適当なのか、適当でないとするればどのテキストに拠るべきなのか、などの諸点について検討を加えてゆきたい。</p>											
【到達目標】											
<p>唐代制度史関係資料に関する基本的な知識を身につけるとともに、その伝存・整理の状況についての理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマについて、2～3週を目途に講義を進める。 なお、初回授業（ガイダンス）時に、学期の授業計画および講義で必要される諸事項について説明を行うので、必ず出席すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．正史：『旧唐書』と『新唐書』 2．通鑑：『資治通鑑』と『通鑑考異』・胡三省注 3．政書（1）：『通典』 4．政書（2）：『唐会要』 5．類書：『冊府元龜』 6．詔勅：『唐大詔令集』 7．その他の唐代制度史関係資料 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>期末レポートの成績による。（100％） レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。 よく工夫のなされているレポート・独自の観点を提示したレポートに対して、高い評価を与えます。「剽窃」については、「試験における不正行為」と見なし、厳正に対処します。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

島田虔次ほか編 『アジア歴史研究入門1』(同朋舎、1983年) ISBN:4810403664

山根幸夫編 『中国史研究入門(上)〔増補改訂版〕』(山川出版社、1991年) ISBN:4634654806

礪波護ほか編 『中国歴史研究入門』(名古屋大学出版会、2006年) ISBN:9784815805272

[授業外学習(予習・復習)等]

上記の「参考書等」欄に掲げる参考文献を随時閲読し、予習復習に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

事前に連絡して日時を調整すること。(学生番号、氏名を明記してメールしてください。)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 文学研究科		辻 正博 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		唐令復原研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
唐令は古代日本の律令国家形成にも多大な影響を与えてきた。唐は数百年前に滅びたが、その復原研究が特に日本で熱心に行われてきたのには、こうした背景があるのかも知れない。この講義では、江戸時代以来行われてきた唐令復原研究を概観することから始めて、現在の唐令復原研究のかかえる様々な問題点について考察したいと思う。											
【到達目標】											
日本古代の制度に多大な影響を与えた唐令について、その概要を把握するとともに、唐令復原研究の現状について理解を深める。											
【授業計画と内容】											
以下のそれぞれテーマについて、おおむね2週を目途に講義を進める。 なお、初回授業（ガイダンス）時に、学期の授業計画および講義で必要される諸事項について説明を行うので、必ず出席すること。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．唐令の編纂と伝承 <ol style="list-style-type: none"> (1) 唐令の編纂 (2) 唐令の伝承 2．唐令復原研究史 <ol style="list-style-type: none"> (1) 萌芽期の研究 江戸時代 (2) 中田薫の唐令復原研究 (3) 仁井田陞『唐令拾遺』 (4) 『唐令拾遺補』 3．唐令復原研究の現在 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「天聖令」残巻の発見 (2) 「天聖令」と唐令復原研究 4．唐令復原研究の課題 											
【履修要件】											
中国史、特に唐宋時代史に関する基本的な事項（概説レベル）を理解していること。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

期末レポートの成績による。(100%)

レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

よく工夫のなされているレポート・独自の観点を提示したレポートに対して、高い評価を与えます。「剽窃」については、「試験における不正行為」と見なし、厳正に対処します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

滋賀秀三編『中国法制史 基本資料の研究』(東京大学出版会、1993年) ISBN:9784130361033

仁井田陞『唐令拾遺』(東京大学出版会、1998年) ISBN:9784130311519

仁井田陞著、池田温編集代表『唐令拾遺補』(東京大学出版会、1997年) ISBN:4130361090

必要に応じてプリントを配布する。

[授業外学習(予習・復習)等]

上記の参考書および講義中に紹介する参考文献を自主的に閲読し、講義内容の理解に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

事前に連絡して日時を調整すること。(学生番号、氏名を明記してメールしてください。)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		矢木 毅 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮史詳説(古代篇1)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮半島に展開した諸部族・諸国家の歴史を概観し、古代における政治・社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界(特に中国史)との連関のなかで朝鮮史への理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本語で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の状況を理解し、その時代相を現代社会との対比において説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 朝鮮史の舞台 2 . 衛氏朝鮮と楽浪郡 3 . 高句麗の建国 4 . 遼東の公孫氏政権 5 . 遼東の慕容氏政権 6 . 高句麗の遼東進出 7 . 百済の建国 8 . 加耶諸国と倭国 9 . 新羅の建国 10 . 新羅の建国(続き) 11 . 隋唐帝国と高句麗 12 . 百済の滅亡 13 . 高句麗の滅亡 14 . 高句麗の滅亡(続き) 15 . まとめ(史料講読) 											
【履修要件】											
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(高等学校履修程度)を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
成績評価は平常点によって行う。平常点は出席状況、参加態度、および授業時の質疑応答等によって総合的に評価する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
講読史料、レジュメ等のプリントを事前に配布する（一週間前の授業時に配布）。

[参考書等]

（参考書）

李成市ほか『朝鮮史1』（山川出版社）ISBN:9784634462137

井上秀雄『古代朝鮮』（講談社）ISBN:9784061596788

矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』（塙書房）ISBN:9784827331110

（関連URL）

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学習(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

（その他(オフィスアワー等)）

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		矢木 毅 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮史詳説(古代篇2)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮半島に展開した諸部族・諸国家の歴史を概観し、古代における政治・社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界(特に中国史)との連関のなかで朝鮮史への理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本語で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の状況を理解し、その時代相を現代社会との対比において説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 百濟遺民の動向 2. 高句麗遺民の動向 3. 新羅の「三韓」統一 4. 渤海と日本 5. 唐・平盧軍と渤海・新羅 6. 新羅の骨品制 7. 新羅の骨品制(続き) 8. 張保臯と円仁 9. 張保臯と円仁(続き) 10. 新羅海賊の出没 11. 新羅末の群盜 12. 崔致遠の帰国 13. 崔致遠の帰国(続き) 14. 唐朝の滅亡と新羅 15. まとめ(史料講読) 											
【履修要件】											
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(高等学校履修程度)を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
成績評価は平常点によって行う。平常点は出席状況、参加態度、および授業時の質疑応答等によって総合的に評価する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
講読史料、レジュメ等のプリントを事前に配布する（一週間前の授業時に配布）。

[参考書等]

（参考書）

李成市ほか『朝鮮史1』（山川出版社）ISBN:9784634462137

井上秀雄『古代朝鮮』（講談社）ISBN:9784061596788

矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』（塙書房）ISBN:9784827331110

（関連URL）

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学習(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

（その他(オフィスアワー等)）

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		江田 憲治 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国共産党史における「理論闘争」									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、中国近現代政治思想史、とくに共産党史を対象領域とし、その理論闘争の歴史、それが現代の社会状況といかなる連続性を持つのかについて考察する。</p> <p>中国共産党の歴史過程について史料と研究にもとづいた批判的理解を可能にすることが目的である。</p> <p>なお、講義形式の授業のほか、適宜、受講者が従来の研究論文を要約して受講者が報告する発表形式の授業をも行う。</p>											
【到達目標】											
東アジア、とくに中国の歴史過程と現状について、資料と先行研究にもとづいて考察する視座と方法を獲得し、批判的に理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 中国共産党史と「理論」</p> <p>第2回 中国社会主義の源流 五・四上海ストライキとアナルコ・サンジカリズム</p> <p>第3回 陳独秀の社会主義受容とアナボル論争(1)</p> <p>第4回 陳独秀の社会主義受容とアナボル論争(2)</p> <p>第5回 中国国民革命論の展開 瞿秋白の「一回革命論」の問題性</p> <p>第6回 中国共産党史へのスターリン主義の登場 瞿秋白の例</p> <p>第7回 中国共産党史の党内抗争(1) 糾弾用語としての「路線」の登場</p> <p>第8回 中国共産党史の党内抗争(2) 党内粛清と毛沢東独裁</p> <p>第9回 中国共産党史における都市と農村(1) 「都市中心論」は存在したか？</p> <p>第10回 中国共産党史における都市と農村(2) 李立三と毛沢東の戦略</p> <p>第11回 中国共産党の党内民主 意思決定における論争を中心に</p> <p>第12回 中国革命におけるトロツキズム運動 陳独秀の思想と行動</p> <p>第13回 陳独秀の「最後の見解」をめぐって</p> <p>第14回 中国共産党理論闘争史序説</p> <p>第15回 中国共産党理論闘争史総括</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点とレポート。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

あらかじめ配布する資料に目をとおして出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		江田 憲治 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目											
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、東アジア、とくに中国の政治制度や思想を対象領域とし、研究論文・研究書、一次史料を素材としたゼミ形式の授業を行う。</p> <p>先行研究の取り扱いや一次史料の収集・利用についての必要な陶冶を行い、研究発表の訓練を行うことが目的である。</p>											
【到達目標】											
<p>現代東アジアの諸問題を歴史的な視点から批判する視座を獲得し、国境を越えた問題意識の共有を可能とする端緒を構築する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ガイダンス 中国現代政治史概説 中国現代政治史についての研究紹介 研究論文・研究書を素材としたゼミ 研究論文・研究書を素材としたゼミ 研究論文・研究書を素材としたゼミ 研究論文・研究書を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点とレポート											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

あらかじめ配布する資料を読解した上で出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山崎 岳 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		倭寇と東アジア									
【授業の概要・目的】											
13世紀から17世紀まで朝鮮や中国の史料に現れる「倭寇」について、東洋史の立場からさまざまな角度で検討し、その社会的背景に踏みこみつつ解説する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 倭寇とその背景について、史料に依拠した基本的な知識を得る。 ・ 同時代の中国・朝鮮・日本など諸国の歴史に対する理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
第1回 趣旨説明 第2回 地理的前提 第3回 隣国から見た日本像 第4回 倭寇と元寇 第5回 高麗の倭寇をめぐって 第6回 明の建国とその国際関係 第7回 朝鮮王朝と倭人たち 第8回 日本僧の朝貢記録 第9回 明代江南の塩賊 第10回 海禁下密貿易の構造と発展 第11回 王直と胡宗憲 第12回 東南海寇の反乱と招撫 第13回 豊臣秀吉の朝鮮出兵 第14回 鄭氏政権の興亡 第15回 総括											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートによる。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に資料を配付する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に適宜課題を出すので、指定の期日に提出すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 田口 宏二郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		経済成長の中国史									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業の前半では、10世紀以降の「中国」における経済パフォーマンスについて、数量的な側面からアプローチする。特にマディソンやアレン、馬徳斌・劉光臨らの議論と問題点を摘示しつつ、あらたな長期歴史経済統計をこころみる。</p> <p>後半では、以上の比較史研究における難問、「分析単位」問題を考えるとともに、制度論モデルの構築にむけて踏み出してゆきたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1) 数量経済史の基礎を理解することができる。</p> <p>2) 社会科学的な議論に触れることを通じて、自らのテーマをより汎通的なかたちで把握・叙述するためのスキルを磨くことができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 はじめに</p> <p>第2-3回 マディソン系列と中国の長期GDP</p> <p>第4-5回 マディソン=プロジェクトによる補正数値と国別GDP比較</p> <p>第6-7回 PPPとヌメルール</p> <p>第8回 テスト</p> <p>第9-10回 経済成長と経済発展：史学史的考察</p> <p>第11 - 12回 ポメラントツ論争と比較制度史</p> <p>第13 - 15回 制度論の構図</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>2回のテスト（筆記）により評価。 講義内容 自主的学習を通じた知識習得を踏まえて、問われたテーマについてエビデンス・ロジックいずれも備えた論述ができているか否かによって成績をつける。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する

[参考書等]

(参考書)

Angus Maddison 『The World Economy: A Millennial Perspective』 (Paris: OECD Publishing, 2001) ISBN:9264186085 (web版・日本語版あり。中国にかんする別著も参照されたい。)

斎藤修 『比較経済発展論』 (東京：岩波書店、2008) ISBN:9784000099158 (わが国が誇る比較経済史の最高峰。経済に無関心な人文系の皆さんもハマること必定。)

William Liu 『The Chinese Market Economy 1000-1500』 (New York: SUNY Press, 2015) ISBN: 9781438455686 (宋-明比較に関する劉光臨の議論は、ディベートに最適。)

(関連URL)

https://www.academia.edu/14988238/Economic_development_of_the_early_modern_China_A_revisiting

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に紹介した文献を自ら入手、読み、2回のテストに備えること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36											
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大手前大学 総合文化学部 准教授 文学研究科				山口 正晃 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		敦煌学入門											
【授業の概要・目的】													
<p>いわゆる「敦煌文献」が発見されてから百年余りが経過した。その間、多岐にわたる敦煌文献の豊富な内容に基づいて、非常に多様かつ膨大な研究が展開・蓄積され、いつしか「敦煌学」と呼ばれるようになった。特に近年、世界中に分散所蔵されている各コレクションの情報公開が劇的に進んだことにより、敦煌学は新たな活況を呈しているが、その流れの中で、かつて敦煌学を牽引してきた日本の学界は「活況を呈している」とは言い難く、そもそも初学者が敦煌学に触れる機会も限定されているように見受けられる。そこで本講義では、敦煌の歴史地理および敦煌文献の概要を解説したうえで実際にいくつかの文献を読み解く形で、これまで蓄積されてきた敦煌学の成果の一端を紹介する。</p>													
【到達目標】													
<ul style="list-style-type: none"> ・敦煌学の概略を知る。 ・敦煌は中国の西北辺境に位置し、一種独特の政治的・社会的・文化的環境に置かれてきた。その歴史を学ぶことにより、歴史を複眼的に見る視点を学ぶことができる。 ・敦煌文献には多くの民間文書が含まれる。それらを読むことにより、「正統な漢文史料」からは窺い知ることのできない、往時の庶民生活の一端に触れることができる。そうした作業を通じて、やはり歴史を複眼的に見る視点を学ぶことができる。 													
【授業計画と内容】													
<p>第1回 ガイダンス 第2～4回 敦煌の地理と歴史 第5～8回 敦煌文献の概要（小テストを含む） 第9～14回 敦煌文献の積読および解説 今年度は「社文書」を中心に読んでゆきます。 第15回 フィードバック</p>													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点及び達成度】													
<p>平常点（小テストを含む）...60点 期末レポート...40点</p>													
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----													

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

適宜、資料・プリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

適宜、関連書籍・論文等を紹介する。

[授業外学習(予習・復習)等]

第2～8回については特に予習を必要としない。ただし復習をしっかりとすること。

第9～14回については、写真を事前に配るので、可能な範囲で構わないので文字の積読をしていくこと。また各回の内容はしっかり復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

質問などがある場合には、Email (masateru@otemae.ac.jp)に連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小沼 孝博 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		内陸アジア史研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義の目的は、内陸アジア（中央ユーラシア）史研究上の諸問題について、とくに17-19世紀の事例をもとに検討し、かつそれらが世界史的文脈の中でどのように位置づけられるかを考えることにある。より具体的には、（1）17-18世紀の事例に照らした内陸アジア史の特徴と課題の把握、（2）清朝統治下の新疆オアシスの政治・社会構造、（3）清朝と中央アジア諸勢力との関係に関わる諸問題、の三点を軸に講義を進めていく予定である。またこれらとは別に、文化史的側面に注目したトピックを取り上げ、多様な視点から歴史像をとらえるための方法を探求してみたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・内陸アジアにおける諸民族の多様な関係、それらが織りなす歴史展開について、基礎的な知識を獲得し、説明できるようになる。 ・17-19世紀における内陸アジア史の動向を正確につかみ、その世界史的な意義を検討できる。 ・多様なアプローチ（多言語資料の活用、文化史的視点、フィールドワーク）によって歴史像を復元し、分析していくための手法を学び、それを自身の研究テーマに生かすことができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のテーマに沿って授業を進める。ただし、講義の進み具合や最新の研究成果に対応して授業の順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p>											
<p>第1回 ガイダンス：内陸アジアという空間 第2回 モグール・ウルスの変容 第3回 遊牧国家ジュンガルの形成 第4回 遊牧国家とオアシス定住民 第5回 内陸アジアの文化（1）：オグズ・カガン伝説 第6回 ジュンガルの解体と清朝の西征 第7回 新疆オアシス社会における清朝統治 第8回 清朝政権とムスリム有力者 第9回 在地社会とムスリム有力者 第10回 内陸アジアの文化（2）：狩猟と王権 第11回 清朝の対外政策と隊商交易 第12回 清朝と中央アジア諸勢力の関係 第13回 北京の回子営 第14回 「近代」的変容と「周縁化」 第15回 講義内容の整理、フィードバック</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

- ・平常点（出席状況、積極性など：30点）、課題（1日目と2日目終了時の2回、20点）、レポート（50点）により評価する。
- ・レポートについては、各自の関心に照らして、先行研究や資料を調べるなど意欲的な取り組みができていないか否かを評価の基準とする。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

佐口透 『ロシアとアジア草原』（吉川弘文館）

小沼孝博 『清と中央アジア草原』（東京大学出版会）ISBN:9784130261494

小松久男ほか 『中央ユーラシアを知る辞典』（平凡社）ISBN:9784582126365

【授業外学習（予習・復習）等】

- （予習）概説書や研究入門などを読み、基礎的な歴史の流れや地理情報を整理しておくこと。
- （復習）講義の中で利用する文献や史料を配布する場合があるので、各自の理解度に応じて読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

本講義は、集中講義であり、成績確定は後期になる見込みである。集中講義なので、質問は授業時間内に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 4 2

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 宮宅 潔 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古代制度史と出土文字史料									
[授業の概要・目的]											
近年中国古代史の研究に大きな影響を与えている新出史料、すなわち竹簡・木簡史料について概説する。出土地域ごとに発見史をたどりながら、主要な竹簡・木簡群を紹介し、それが歴史研究、特に制度史研究に与えたインパクトについて講義する。											
[到達目標]											
新出史料に関する知識を身につけ、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中国簡牘史料の発見史 3. 楚簡の概観 4. 秦簡の概観 5. 墓葬出土漢簡の概観 6. 辺境出土漢簡の概観 <p>初回のガイダンスの後、各単元を2～3回に分けて講義する。</p>											
[履修要件]											
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
期末レポート（80点）に平常点（授業内での質問・発言 20点）を加味して評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系 4 3

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 宮宅 潔 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古代人の生活誌									
[授業の概要・目的]											
新出史料に依拠しつつ、中国秦漢時代の一般庶民や下級官吏が如何なる生涯をおくったのかを、制度的な側面から紹介していく。特に戸籍制度・土地制度・賦税制度などに注目して、国家が如何にして臣民を管理したのかを概説し、それを通じて中国古代の専制国家の姿について、理解を深めることを目指す。											
[到達目標]											
中国古代史の諸制度について、基本的な知識を身につけたうえで、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
[授業計画と内容]											
1．ガイダンス 2．戸籍制度 3．家族制度 4．聚落制度・土地制度 5．身分制度 6．教育制度 7．賦税制度 8．徴兵制度											
初回のガイダンスの後、各単元を1～2回に分けて講義する。											
[履修要件]											
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
期末レポート（80点）に平常点（授業内での質問・発言 20点）を加味して評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 伝統中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義は、こうした仲介者の意義について、伝統中国（主として19世紀中葉まで）における事例を中心に、中国経済の歴史的展開をふまえて考察してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>前近代における中国経済の展開を把握したうえで、伝統中国における仲介者の役割について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 古代中国経済と商業 3. 隋唐帝国経済と商業 4. 宋代商業の発展と仲介者 5. モンゴル時代のユーラシア商業 6. 明代経済の展開と牙行（1） 7. 明代経済の展開と牙行（2） 8. 東アジア海域交流と仲介者 9. 倭寇的状況と仲介地（1） 10. 倭寇的状況と仲介地（2） 11. 明清交替期の海域世界と仲介者 12. 清代海上貿易の展開と仲介者 13. 海域近代の始まりと仲介者 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
<p>前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 近現代中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義はこうした仲介者の意義について、近現代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者や現在の仲介者と比較してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>近現代における仲介者の役割を把握したうえで、前近代や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. アヘン貿易と仲介者 3. 開港場貿易：外国人商人と買弁（1） 4. 開港場貿易：外国人商人と買弁（2） 5. 苦力貿易と客頭（1） 6. 苦力貿易と客頭（2） 7. 開港場貿易の発展と行棧（1） 8. 開港場貿易の発展と行棧（2） 9. 外国籍華人と在華外国領事の役割（1） 10. 外国籍華人と在華外国領事の役割（2） 11. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡 12. 前近代東南アジア海域の仲介者 13. 前近代地中海世界の仲介者 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
<p>前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 古松 崇志 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		前近代ユーラシア東方の石刻史料の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>前近代ユーラシア東方（中国本土、モンゴリア、マンチュリアなどを指す）の歴史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、この地域に残された多様な言語で記される石刻史料のうち、質量ともに最も豊富な漢語の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。</p>											
【到達目標】											
<p>石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス（1回） 2．石刻学・石刻研究史の概観（2～3回） 3．石刻史料へのアクセス（伝統的な石刻文献を含めた典籍文献、新出史料集、ウェブ上のデータベースなど）概観（2～3回） 4．石刻史料積読（7～9回） 5．まとめ（1回） <p>積読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元（モンゴル帝国）時代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものをを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。</p> <p>基本的に以上の予定にしたがって講義を進めるが、回数など変更の可能性があることに留意されたい。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点											
【教科書】											
積読史料は、プリントなどを配布する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

積読する史料を指定してからは、受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 4 7

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 古松 崇志 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		前近代ユーラシア東方の石刻史料の研究									
【授業の概要・目的】											
前近代ユーラシア東方（中国本土、モンゴリア、マンチュリアなどを指す）の歴史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、この地域に残された多様な言語で記される石刻史料のうち、質量ともに最も豊富な漢語の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。											
【到達目標】											
石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。											
【授業計画と内容】											
1．ガイダンス（1回） 2．石刻史料積読（13回） 3．まとめ（1回） 積読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元（モンゴル帝国）時代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。											
【履修要件】											
前期からつづけて履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点											
【教科書】											
積読史料は、プリントなどを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
積読する史料は受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET24 36741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習I) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		吉本 道雅 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時間	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学習(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET24 36741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習I) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		吉本 道雅 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。 第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET24 36743 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中砂 明德 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		茅元儀『石民四十集』『督師紀略』									
【授業の概要・目的】											
<p>明末に『武備志』という浩瀚な兵書を著したことで知られる茅元儀の文集『石民四十集』に収録される書簡を読む。科擧に挫折し、進士になれなかった彼は、策士・軍事通として有力政治家や皇帝に文章によって売り込みをかけた。その文章は、「憂国の士人が熱誠を尽くす」といった単純なものではなく、屈曲に満ち満ちていて、たいへん読みづらい。しかし、だからこそ魅力的でもある。特異ではあるが、ある意味では明末の風気をよく映し出した文章でもある。</p> <p>今年度は、いよいよ戦線に出た時期（天啓三年・四年 1623・24）の文章を読むとともに、彼の著作『督師紀略』を並行して選読する。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文テキストを読むことで、自力で句読する能力が身に付く。 2、書簡を歴史史料としてどのように読むべきかを知ることができる。 3、明人の政治・文化観を知ることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>進度については、受講生次第なので、確言できない。第1回目に、これまで二年間本書を読んできたことをもとにした解説を行い、新規受講者に予備知識を与える。</p> <p>以下、2回目～14回目まで、毎回書簡を1本ないし2本と『督師紀略』の関係部分を読む。学部生ないし他専修の学生にはより易しい『督師紀略』を、院生には書簡を読んでもらう。</p> <p>15回目 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 東洋史学(演習II) (2)へ続く -----											

東洋史学(演習II) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

1週間前に当番を決めるので、自分の担当部分については、責任をもって日本語訳を作成しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36743 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中砂 明德 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『明清档案』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>中央研究院が刊行中の『明清档案』に収録されている清朝順治年間の文書を読み、中国制圧の過程を清朝サイドから見てゆく。明清の王朝交代は、日本では「華夷変態」として、またヨーロッパでも宣教師によってそのニュースが紹介されるなど、大事件として受けとめられていた。しかし、明末清初の動乱に関する歴史記述とそれを承けた研究は、満州人王朝の世界史的意義が強調されるようになった今日においてもなお「敗者」の側に片寄りすぎている。あらためてこの史料集を読むことで、勝者の視点から冷静に支配確立の過程を見てゆきたい。</p> <p>今年は順治四年後半から五年前半にかけて(1647-48)の档案を読む。清朝支配の試行錯誤の過程を、文書を通じてたどってゆく。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文に取り組むことで、自力で句読を行う能力を身につけることができる。 2、行政文書の形態に習熟できる。 3、清朝の中国征服史について理解を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>1回 『明清档案』のテキストの性格を説明し、昨年読んだところについて言及しながら、順治元年～四年にわたる政治情勢について解説する。1コマにつき一本を読む予定。</p> <p>2回～14回では以下のテーマの档案を取り上げる。</p> <p>洪承疇錯誤、牛金星糾弾、山東：臬城失陥、江西：山賊討滅、揚州：偽王擒獲、広東：三大勝利、鎮江：貪吏弾劾、陝西：賊首誅殺、陝西：違旨蓄髪、揚州：逆民逮捕、常州：臬城乱入、妖教渠盗15回、フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 東洋史学(演習II) (2)へ続く -----											

東洋史学(演習II) (2)

[授業外学習(予習・復習)等]

1週間前に当番を決めて、文書1本ないしその一部を担当してもらうので、それについては責任をもって予習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 5 2

科目ナンバリング		U-LET24 36745 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習III) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梁啓超『飲冰室合集』選読									
[授業の概要・目的]											
梁啓超の文集『飲冰室合集』から重要な文章を選読する。											
[到達目標]											
近代中国を考えるうえで、梁啓超の著作を読むことは避けて通ることができない。梁が切り開いた新しい文体を正確に理解することが第一の目標である。さらにすすんで、当時の知識人たちが抱えていた問題意識、世界観、日本の影響などを読み解くことが第二の目標である。											
[授業計画と内容]											
初回はガイダンスで二回目から読み進める。前期は「清議報一百冊祝辭并論報館之責任及本館之経歴」などを読む。近代漢文を読解し、日本や西洋の影響を読み取ることを心懸ける。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
プリントをコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書)											
梁啓超『新民説』(平凡社) ISBN:4000291874 狭間直樹『梁啓超：東アジア文明史の転換』(岩波書店) ISBN:4000291874											
[授業外学習(予習・復習)等]											
1週間前に当番を決めるので、少なくとも担当部分については責任をもって予習すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系 5 3

科目ナンバリング		U-LET24 36745 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習III) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梁啓超『飲冰室合集』選読									
[授業の概要・目的]											
梁啓超の文集『飲冰室合集』から重要な文章を選読する。											
[到達目標]											
近代中国を考えるうえで、梁啓超の著作を読むことは避けて通ることができない。梁が切り開いた新しい文体を正確に理解することが第一の目標である。さらにすすんで、当時の知識人たちが抱えていた問題意識、世界観、日本の影響などを読み解くことが第二の目標である。											
[授業計画と内容]											
初回はガイダンスで二回目から読み進める。前期の続きから読む。近代漢文を読解し、日本や西洋の影響を読み取ることを心懸ける。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
プリントを使用する。											
[参考書等]											
(参考書)											
梁啓超『新民説』(平凡社) ISBN:4000291874 狭間直樹『梁啓超：東アジア文明史の転換』(岩波書店) ISBN:4000291874											
[授業外学習(予習・復習)等]											
1週間前に当番を決めるので、少なくとも担当部分については責任をもって予習すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中砂 明德 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『資治通鑑』晋紀を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>長らく為政者の必読書とされてきた『資治通鑑』を読むことによって、漢文読解の力を養うだけでなく、中国の知識人が歴史から何を読み取ろうとしたかを考える機会を提供する。</p> <p>なお、本授業は東洋史学専修進学者の必修単位であるので、東洋史に進もうと考えている者は2回生のうちに履修しておくのが望ましい。</p> <p>受講生が減少しているので、他の専修に進む予定の人も「最後の漢文学習の機会？」と思って参加してくれるとありがたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1、漢文史書の読解力の基礎ができる。</p> <p>2、漢文史書の叙述の約束事を体得できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>今年も、五胡諸政権の興亡の部分を選読する。なお、東晋王朝の動向については取り上げない。授業の進捗については受講生次第であるので、明確に計画を示すことはできないが、次のように予定している。</p> <p>(前期)</p> <p>1回 『資治通鑑』がいかに読まれてきたかを紹介</p> <p>2～6回 前秦、前燕を滅ぼす(370年)</p> <p>7～10回 前秦の南征(～379年)</p> <p>11～15回 前秦の敗北(～383年)</p> <p>(後期)</p> <p>16回～20回 苻堅の死まで(～385年)</p> <p>21回～25回 後燕・後秦・北魏の台頭(～387年)</p> <p>26回～29回 後秦、前秦を倒す(～394年)</p> <p>30回 フィードバック</p> <p>テキストは標点本を使う。本文のみを読むが、胡三省の註も適宜参照する。</p>											
【履修要件】											
参加者には毎時間必ず1回は当てるので、予習は必須。											
----- 東洋史学(講読)(2)へ続く -----											

東洋史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点を重視する。出席だけでは評価しない。参加者には毎回当てるので、その時の読み、対応をもっぱら評価する。学年末の筆記試験の成績をこれに加味する。内訳は平常点5割、筆記試験5割である。

[教科書]

プリントしたものを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

一回前の授業で次の授業分のテキストを配布する(B4用紙で1, 2枚)ので、その分については、勝手に自分でここまでと決めることなく、予習しておくこと。訓読と現代日本語訳を課するので、そのためのノートを作っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 5 5

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		高嶋 航 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	月1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
[授業の概要・目的]											
中国史に関する英語の文献を読む。毎回、日本語での翻訳を準備し、英文読解能力の向上につとめる。											
[到達目標]											
英語による歴史論文の体裁に慣れるとともに、それらを批判的に読解する能力を習得することができる。											
[授業計画と内容]											
テキストは東洋史に関する英語の本もしくは論文で、受講者の関心を考慮して決める。初回にテキストを決め、二回目から読み進める。 対象は基本的に大学院進学予定の東洋史の四回生とするが、他専修の四回生以外でも一向に問題ない。なお、本授業は東洋史学の必修科目ではないので注意していただきたい。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点。											
[教科書]											
授業で配布する											
[参考書等]											
(参考書) 特になし											
[授業外学習(予習・復習)等]											
担当範囲の英文を日本語訳して提出する。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系 5 6

科目ナンバリング		U-LET24 36761 PJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(実習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授		吉本 道雅 中砂 明德 高嶋 航 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		東洋史学(実習)									
[授業の概要・目的]											
全教員3人によるリレー担当。東洋史学研究のうち、特に中国史の全時代にわたって、先行研究をどのようにして探るか、古文書をどのようにあつかうか、コンピューターを研究にどのように用いるかなど実習させるとともに、自らテーマを選んで「小論文」を発表させる。											
[到達目標]											
東洋史の卒論を書くにあたって基本的なスキルを習得できるようにする。											
[授業計画と内容]											
第1回～第15回： 主に3回生を対象とする。東洋史学専修の全教員が1年間にわたり、東洋史学を研究するにあたってのツール(工具)を教え、学生に実際に使わせる。先行研究の探し方を教えるとともに、優れた先行研究を選んで学生に読ませ、先人の達成したものを学びつつ、自らがおかれた研究状況を考えさせる。 11月頃までにツールの修得や先行研究の選読を終え、自らの問題関心に即した研究テーマを選ばせる。それまでに修得した知識と方法をもとにして、自ら先行研究を探し、あるいは原典の一部を読むことによって、自らの問題に解答を与えさせる。1月中頃にこれを「小論文」として授業で発表させる。 *フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点と「小論文」の発表を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
----- 東洋史学(実習)(2)へ続く -----											

東洋史学(実習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

毎回提出される課題を準備しておくこと。一年間を通して卒論のテーマを絞り込めるようにつねひ
ごろから関心を持っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は各教員の研究室で行う

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 5 7

科目ナンバリング		U-LET25 26801 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西南アジア史学)(講義) West Asian History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		井谷 鋼造 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史学序説									
【授業の概要・目的】											
<p>歴史学一般、特に西アジア史、中央アジア史に関心を持ち、この分野を学んで行こうとする学生に対して、現代人が学び、知る必要のある歴史とは何か、ということを中心に考慮しながら、入門・概説的な授業をおこなう。西南アジア史の分野は他の歴史分野に比べて手頃な概説・入門的な書物等がないので、この授業では歴史学、文献学、史料学の基本的な研究方法に基づいて西アジア地域やその歴史についての基礎知識が身につくように、受講者の今後の研究上の関心や進展方向についても示唆的な内容を含められるように努めている。西アジア、中央アジアには多くの歴史的、文化的な遺跡、遺物が残されており、スライドなどを用いてそのいくつかを紹介し、文化財保存の必要性についても取り上げる。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業の受講者は、京都大学の他の部局等では学ぶ機会の少ない西南アジア史に関する基礎的な知識を習得することが出来る。単に知識が量的に増えるだけでなく、歴史学というものが史料研究を中心としてどのように形成され、発展し、さらにどのような方向へ向かおうとしているのか、というような問題についても受講者各自が自身の知識を基礎として考究する方向へ進むことが可能になる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は概ね次のような順序で行う予定である。各テーマについては2～4回の授業をおこなう。(カッコ内は授業回数の目安です。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西アジアの歴史研究史上の特徴(1) 2. 京都大学における西南アジア史研究の歴史(2) 3. 西南アジア、中央アジア地域の特性(2) 4. 歴史の概説 文明の発生と前3千年紀のシュメール、アッカド時代(3) 5. 歴史の概説 前2千年紀の西アジア(5) 6. 歴史の概説 前1千年紀 大帝国の時代 アッシリアからローマ(4) 7. 歴史の概説 西アジアの諸宗教(4) 8. 歴史の概説 西暦紀元後の西アジア(4) 9. 歴史の概説 イスラームの開教とその後の西アジア(4) 10. まとめ(1) 											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

履修者数によるが、受講者多数の場合（30名以上）は筆記試験を行ない、その点数によって評価する。受講者が少ない場合はレポートを提出させて評価する。なお、担当者がこの授業を担当してきた、これまでの9年間筆記試験以外で成績を評価したことはない。

[教科書]

使用しない
必要な資料は適宜コピーして配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

受講者には特別な予習や復習は課さない。あくまでも自発的に関心のある参考文献を調べたり、関連する情報を得るようにしてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学 (特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		井谷 鋼造 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		セルジューク朝とその時代									
【授業の概要・目的】											
西暦11世紀から14世紀初めにわたって、現在のイラン、イラク、シリア、トルコにかけての地域を支配していたセルジューク朝の歴史研究を行なう。セルジューク朝はテュルク系の支配者が君臨したスンニー・イスラーム王朝であり、この王朝は西アジア、中央アジアの歴史上に大きな足跡を残した。この王朝の歴史を概説しながら、西アジアのイスラーム史上における政治史的、文化史的なセルジューク朝の存在意義を論じることを目的とする。基本的な史料紹介、資料や遺物の残存状況についても現地での調査に基づいて解説する。											
【到達目標】											
セルジューク朝が西南アジア史学分野の中で本格的に扱われることは少ないので、個別王朝の歴史研究の一例として有意義な講義となることを目指している。受講生はこの講義を聴くことで、イスラーム史上のセルジューク朝の存在を明確に理解することが出来るようになり、それを参考にして自らの研究姿勢についても再考することが出来るようになる。また、イスラーム史の流れ、西アジア地域の歴史的な特質についても確実な把握が可能になる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.イスラーム史上のセルジューク朝(1) 2.テュルク民族史上のセルジューク朝(1) 3.セルジューク朝時代のアラビア語史料について(1) 4.セルジューク朝時代のペルシア語史料について(1) 5.セルジューク朝時代の歴史遺産と刻銘文資料(2) 6.セルジューク朝史概説(2) 7.ルームのセルジューク朝史概説(2) 8.セルジューク朝時代の文化(2) 9.ニザーム・アルムルクと『統治の書』(2) 10.まとめ(1) カッコ内は講義の予定回数です。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点(30%)と期末レポート(70%)を合わせて評価する。											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学（特殊講義）(2)

[教科書]

使用しない
授業の際にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

予習は特に必要ない。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		イスラーム地域研究センター 仁子 寿晴 研究員 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム哲学史研究									
【授業の概要・目的】											
<p>《授業全体のテーマ》</p> <p>本講義では、イブン・スィーナ（西暦1037年歿）の形而上学に注目し、彼の思想形成の現場（コンテクスト）に即してその哲学的意義並びに初期イスラーム思想（西暦9～10世紀）の思想配置を検討する。イブン・スィーナ思想には少なくとも次の四つの背景がある。(1) 古典後期のアリストテレス注釈群（主に新プラトン主義者たちによる注釈群）、(2) アリストテレス著作群のアラビア語訳、(3) イブン・スィーナより前のアラビア語哲学者たちの伝統、(4) イスラーム内哲学である古典期カラム（通常、イスラーム神学と呼ばれる）の存在論。これらの裡、(1)(2)(4)に関して特に(4)は、日本語で読める限りでは手つかずである（把握し損ねているか、まるで無視するのかのいずれかだ）。その一端は、過去二年の講義で古典期カラムを扱った際に指摘した。「イブン・スィーナの思想で独創的に見える諸点のほとんどが古典期カラムの思想に聯関すると或る研究者は言う。間違いなくその通りである。だが、イブン・スィーナ思想に見える独創性の起源はそれだけに留まらない。我々はえてして、イブン・スィーナの文章を直にアリストテレスの文章（ギリシア語あるいはそのギリシア語の日本語訳）、ないしプロティノスの文章（ギリシア語あるいはそのギリシア語の日本語訳）と較べるのだが、イブン・スィーナが読んだのは、ギリシア語アリストテレスないしプロティノスでなく、アラビア語訳アリストテレス・プロティノスであること、そして、イブン・スィーナは、我々と同じく、原典（アラビア語訳）をそのまま己れの解釈で読むのではなく、注釈類（これも多くはアラビア語訳）で読むことを忘れてはならない。これを総合的に言うならば、翻訳も含めたアラビア語文化のなかでイブン・スィーナが為したことを評価せねばならない、ということだ。イスラーム思想史においてアリストテレス主義・新プラトン主義が一般の哲学史の文脈で語られることが多い（それしかないと言ってもよい）のだが、一般の哲学史とは違うコンテクストが古典期イスラーム圏にあったことはもっと注目してもよいテーマであるのを指摘しておく。</p> <p>《意義》</p> <p>アッバース朝初期（西暦9世紀と10世紀）に翻訳を通じてギリシア思想が大量に大アラブ・イスラーム文化圏に流入したことはよく知られる。だが、その裏側で（ギリシア思想と無縁と言わないまでも、ほぼ独立したし方で）アラビア語という言語への考察を通じて独自の思想が育まれたことは現在ほぼ無視されている。イスラーム思想史を語る上で必須の項目が撥無されていると言わざるをえない。それと共に、アラビア語翻訳そのものがその後の思想展開を支えたことも撥無されている。イブン・スィーナの思想がそうした状況下でかなり不十分なし方で伝えられているかを我々は知らなければならない。不十分なし方で伝えられているのは、イブン・スィーナの思想だけではない。イスラーム思想と呼ばれるもののほぼ全域が、そうした幾つかの理由に拠り、歪められたし方で伝えられている。この講義がそうした不十分さ・歪みを全て正す訳でない。少なくとも何が不十分であり、如何なるし方で歪んでいるのかを部分的にであれ伝えたいと思う。講義で主に使用するのは、R. Wisnovsky, <i>Avicenna's Metaphysics in Context</i>(Cornell University Press, 2003)、そして副次的に、原初的な古典期カラムの存在論を知るために、R. Frank, ``The Metaphysics of Created Being according to Abu l-Hudhayl al-`Allaf''と同``The Divine Attributes according to the Teaching of Abu l-Hudhayl al-`Allaf''を用いる。アブ・ル＝フザイルは、イブン・スィーナの先駆者であるアラビア</p>											
西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

語哲学者アル=キンディーと同時代の、アッバース朝初期ムウタズィラ派に分類されるムタカリム(神学者)。翻訳活動が盛んであった時代のひとだ。いずれの資料も原文と和訳を配布する。アラビア語の文法を多少なりとも知っているのが望ましいが、それを講義出席の要件とはしない。

【到達目標】

西暦11世紀以降のイスラーム思想史で、或る意味での基本となる、イブン・スィーナの存在論の立場がどのように形成されたかを理解し、その視点から歴史を吟味し、考察することができるようになる。

【授業計画と内容】

基本的にRobert Wisnovskyの単著を読み、それを検討することで授業を進める(副次的にRichard Frankの二つの論文を使用する)。事前に英語原文と和訳を配布する。どちらを使用しても構わない。

1回. 新プラトン主義者たちのアリストテレス注釈・アリストテレス著作のアラビア語翻訳・古典期カラームの言語哲学・イブン・スィーナの著作群についての概説

2-3回. 古典期カラームの存在論(1): R. Frank, ``The Metaphysics of Created Being according to Abu l-Hudhayl al-`Allaf''の読解・検討

4-5回. 古典期カラームの存在論(2): R. Frank, ``The Divine Attributes according to the Teaching of Abu l-Hudhayl al-`Allaf''の読解・検討

6-7回. イブン・スィーナの「理知的靈魂の形而上学」の背景(1): R. Wisnovsky, Avicenna's Metaphysics in Context第一章 第四章の読解・検討

8回. イブン・スィーナの「理知的靈魂の形而上学」の背景(2): R. Wisnovsky, Avicenna's Metaphysics in Context第五章の読解・検討

9回. イブン・スィーナの「理知的靈魂の形而上学」: R. Wisnovsky, Avicenna's Metaphysics in Context第六の読解・検討

10-12回. イブン・スィーナに拠る、本質と存在: R. Wisnovsky, Avicenna's Metaphysics in Context第七章 第十章の読解・検討

13-14回. イブン・スィーナに拠る、必然性と可能性: R. Wisnovsky, Avicenna's Metaphysics in Context第十一章 第十四章の読解・検討

15回. まとめとフィードバック(講義で扱った内容はおそらく初めて聴くものであろう。納得いくまで私を問い詰めていただきたい)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポートおよび個別報告については到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用テキストは次のもの。Robert Wisnovsky, Avicenna's Metaphysics in Context, Cornell University Press, New York, 2003. Richard M. Frank, Early Islamic Theology: The Mu`tazilaites and Al-Ash`ari(Texts and Studies on the Development and History of Kalam, vol. II), Ashgate, Aldershot, 2007所収``The Metaphysics of Created Being according to Abu l-Hudhayl al-`Allaf''と``The Divine Attributes according to

西南アジア史学(特殊講義)(3)

the teaching of Abu l-Hudhayl al-`Allaf". 内容が著しく高度なので原文和訳を附して配布する。イスラーム思想の基礎知識は逐次説明するので既習の必要なし。本来であればアラビア語原文を参照したいが、授業参加者を限定することになるのでそれはしない。したがってアラビア語を学んでいる必要はない。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

事前に英文テキストと和訳を配布するので、授業に備えて読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 6 0

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		稲葉 穰 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム期ペルシアにおける君主鑑について									
[授業の概要・目的]											
西暦9世紀以降、イスラーム世界の特に東方においてイラン的伝統をも受け継いだ、君主鑑文学（世俗の王に対する忠告の書、助言の書）が書かれるようになる。本講義ではこのような現象をイスラームの東方拡大の過程の中で考察し、Islamizationと呼ばれるプロセスの一つの側面と位置づけた上で、イスラームが如何にして広域宗教、汎民族的信仰へと変容し得たのかを論じる。											
[到達目標]											
現代世界におけるイスラーム社会の重要性は改めて強調するまでもないが、一方でイスラーム社会の内部における多様性を十分に理解することは、ステレオタイプの思考に陥らないためにも必要不可欠である。本特殊講義においては、初期においていわゆるイラン世界が経験したイスラーム化の一側面を浮き彫りにし、イスラームがどのようにそれ以前の文化や伝統と接続し、そのうちに多様性を抱くようになったのかを考えることによって、よりダイナミックなイスラーム理解へと至ることを目標とする。											
[授業計画と内容]											
第1回 授業の狙いの説明 第2～4回 イスラーム化前夜の東部イラン社会の状況についての解説 第5～12回 君主鑑文学の出現（L. Marlow, Counsel for Kings: Wisdom and Politics in Tenth-Century Iranを題材に） 第13～14回 ペルシア・イスラーム文化の形成過程 第15回 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点の評価（50%）と期末レポート（50%）で評価する。講義内容に関する文献を授業中に会読し、その内容を平常点として加味する。期末レポートについては到達目標の達成度に応じて採点する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業中に別途指示する											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 中西 竜也 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国ムスリムによる翻訳の諸相									
【授業の概要・目的】											
清代の中国ムスリム（漢語を話すムスリム）が著した漢語イスラーム文献と、そのアラビア語・ペルシア語イスラーム原典とを比較することにより、彼らがイスラームの諸概念を、いかに漢語に翻訳したか、換言すれば、いかに中国的文脈に即して説明しようとしたかを検討する。そして、当該漢語文献の著者たちが意識していた、当時の政治的・社会的・文化的な圧力、ないしはイスラーム文明と中国文明とのギャップがいかなるものであり、彼らがそれをいかに克服しようとしていたかを吟味する。											
【到達目標】											
イスラーム文明と中国文明との相違、中国ムスリムによるその調停の歴史的様相を理解することを通じて、マイノリティとマジョリティの共生や異文化間対話の問題についての見識を養う。多言語史料の利用方法を習得する。											
【授業計画と内容】											
第1-2回 中国ムスリムと漢語イスラーム文献の概況解説 第3-14回 馬徳新『帰処の諸神秘（Asrar al-ma`ad）』と、馬開科『大化総帰』におけるその漢語訳とを比較しながら読む予定。内容は、イスラームの来世論。基本的には講師が読みながら、適宜解説を加えていく。 第15回 まとめ											
【履修要件】											
アラビア語と漢語の文献を読むので、両方の語学の知識があったほうが望ましいが、文献の釈読は基本的には講師が行うので、アラビア語と漢語の知識が無くてもよい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末レポートにより評価する。											
【教科書】											
授業中に資料を配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 井筒俊彦『イスラーム哲学の原像』（岩波書店）ISBN:978-4004201199 中国ムスリム研究会『中国のムスリムを知るための60章』（明石書店）ISBN:978-4-7503-3645-9 中西竜也『中華と対話するイスラーム 17-19世紀中国ムスリムの思想的営為』（京都大学学術出版会）ISBN:978-4-87698-273-8											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に適宜指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 6 2

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相									
【授業の概要・目的】											
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。											
【到達目標】											
中央アジアの近現代（帝政ロシア支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の予定に従って、講義を行う。											
<ul style="list-style-type: none"> * 旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週） * 民族史の記述（第3-4週） * ペレストロイカと歴史の見直し（第5-7週） * 独立後の新しいナショナリズムと歴史研究（第8-9週） * 評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週） * 新しい正史（第13-14週） * まとめ（第15週） 											
なお、参加者の関心次第で、現代ウズベク語またはロシア語の資料を読むことも視野に入れる。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

宇山智彦(編著)『中央アジアを知るための60章』(明石書店)ISBN:978-4-7503-3137-9(中央アジア研究の入門書)

小松久男『革命の中央アジア』(東京大学出版会)ISBN:4-13-025027-2(ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)

宇山智彦『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」『地域研究論集』Vol. 2, No. 1(1999)』(国立民族学博物館地域研究企画交流センター)(ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)

帯谷知可『「英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」酒井啓子・臼杵陽編『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』(東京大学出版会)ISBN:4-13-034185-5(ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)

帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』(明石書店)ISBN:9784750346373(ウズベキスタン地域研究入門編)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cseas.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 大学院人文学研究科 准教授 文学研究科		真下 裕之 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		南アジア・ムスリム社会史研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
南アジアにおけるムスリム社会の歴史研究は近年、欧米においてもインドにおいても大きな進展を見せており、その方向性も多岐にわたっている。この授業の目的は、このような最新の研究動向を紹介・検討することを通じて、今後の研究の展望を示すことである。											
【到達目標】											
南アジアにおけるムスリム社会の歴史的展開に関する基本的事項を理解するとともに、今後の研究上、有意の問題点の所在を理解する。併せて、研究史を踏まえた研究上の問題点の検出という、卒論執筆の上で求められる技能のあり方を習得する。											
【授業計画と内容】											
第1回 導入：南アジア歴史地理概説											
第2回 南アジア・ムスリム諸政権の展開（デリー・スルターン朝の時代）に関する最近の研究 1											
第3回 南アジア・ムスリム諸政権の展開（デリー・スルターン朝の時代）に関する最近の研究 2											
第4回 南アジア・ムスリム諸政権の展開（ムガル帝国の時代）に関する最近の研究 1											
第5回 南アジア・ムスリム諸政権の展開（ムガル帝国の時代）に関する最近の研究 2											
第6回 前近代南アジアにおける言語文化の展開に関する最近の研究 1											
第7回 前近代南アジアにおける言語文化の展開に関する最近の研究 2											
第8回 前近代南アジアにおける言語文化の展開に関する最近の研究 3											
第9回 前近代南アジアにおける言語文化の展開に関する最近の研究 4											
第10回 前近代南アジアにおける諸宗教の展開に関する最近の研究 1											
第11回 前近代南アジアにおける諸宗教の展開に関する最近の研究 2											
第12回 前近代南アジアにおける諸宗教の展開に関する最近の研究 3											
第13回 前近代南アジア史の史資料に関する最近の研究 1											
第14回 前近代南アジア史の史資料に関する最近の研究 2											
第15回 前近代南アジア史の史資料に関する最近の研究 3											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末レポート											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献に積極的にあたることを望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 川口 琢司 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	前近代の中央アジア、沿ヴォルガ、クリミアの歴史における諸問題										
[授業の概要・目的]											
<p>モンゴル時代以降の中央アジアや沿ヴォルガ、クリミアでは、ペルシア語やトルコ語による歴史叙述の伝統がみられた。注目すべきことに、イランや中央アジアで編纂されたペルシア語やトルコ語の史書が沿ヴォルガやクリミアで編纂されたトルコ語史書に大きな影響をあたえた事例も確認され、そこから中央ユーラシアにおける歴史叙述の体系の一端が浮かび上がってくるのである。この授業では、総論として、まずこの歴史叙述の体系を紹介する。</p> <p>つぎに、各論として、講師が専門とするティムール帝国史の諸問題を取り上げる。この帝国の国制や社会慣習には、トルコ・モンゴル、イラン（ペルシア）、イスラームの要素が顕著に認められる。そこで、帝都と首都圏、婚姻と葬礼、即位儀礼と呪術、宮廷工房と写本絵画などの視点からこれらの要素をあらためて検証する。</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

【到達目標】

総論と各論の授業をとおして中央アジアや沿ヴォルガ、クリミアの歴史について知見を深め、新たな視座のための手がかりをえる。

【授業計画と内容】

基本的には以下の授業計画にしたがって進めていくが、内容や順序は固定したものではなく、担当の方針と受講者の背景や理解に応じて担当者が適切に決める。

- 第1回 序論：あるバシキール人研究者の功罪
- 第2回 中央ユーラシアにおける歴史叙述の体系（1）
- 第3回 中央ユーラシアにおける歴史叙述の体系（2）
- 第4回 中央ユーラシアにおける歴史叙述の体系（3）
- 第5回 ティムール帝国史概観（1）
- 第6回 ティムール帝国史概観（2）
- 第7回 帝都と首都圏（1）
- 第8回 帝都と首都圏（2）
- 第9回 婚姻と葬礼（1）
- 第10回 婚姻と葬礼（2）
- 第11回 即位儀礼と呪術（1）
- 第12回 即位儀礼と呪術（2）
- 第13回 宮廷工房と写本絵画（1）
- 第14回 宮廷工房と写本絵画（2）
- 第15回 まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポートにより評価する。なお、レポートの詳細については、最後の授業の際に説明する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

森本一夫編著 『ペルシア語が結んだ世界—もうひとつのユーラシア史』（スラブ・ユーラシア叢書、北海道大学出版会）

久保一之 『ティムール』（世界史リブレット36、山川出版社）

川口琢司 『ティムール帝国』（講談社選書メチエ570、講談社）

そのほかの文献は授業の中で適宜紹介する。

西南アジア史学(特殊講義)(3)へ続く

西南アジア史学(特殊講義)(3)

[授業外学習（予習・復習）等]

授業の中で紹介した参考文献を参照することが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は採点報告日以降に実施されるため、成績報告が遅れることを了解されたい。
授業中、わからないことについては積極的な質問を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		イスラーム地域研究センター 今松 泰 客員准教授 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オスマン朝文献研究									
【授業の概要・目的】											
この講義では、オスマン朝（1299-1922）における文献記述の伝統に関する基礎的な知識を提示するとともに、代表的なオスマン語文献のうちいくつかを取り上げ、実際に読むことで、オスマン語の特徴を習得することを目的とする。今年度の授業では年代記取り上げる予定であるが、受講者に応じて変更する場合もある。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・オスマン朝の文献に関する基礎知識を身につける ・オスマン語の読解についても基礎的な力を身につける 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 総説 2 初期年代記：アーシュクパシャザーデ 3 初期年代記：アーシュクパシャザーデ 4 初期年代記：ネシュリー 5 初期年代記：ネシュリー 6 16世紀の年代記：ケマルパシャザーデ 7 16世紀の年代記：ケマルパシャザーデ 8 16世紀の年代記：ケマルパシャザーデ 9 16世紀の年代記：セラニキー 10 16世紀の年代記：セラニキー 11 16世紀の年代記：セラニキー 12 17世紀の年代記：ペチェヴィー 13 17世紀の年代記：ペチェヴィー 14 17世紀の年代記：ペチェヴィー 15 まとめとフィードバック：授業内容に関する質問を受けつける 											
【履修要件】											
現代トルコ語の文法知識を有することが望ましい。 ただし学習意欲のある者は、上記要件を満たしていなくてもよい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを適宜配布する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

自らの関心に従って授業で紹介した参考文献を読むことが望ましい。講読箇所の予習などを課す場合がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		磯貝 健一 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中央アジアのイスラーム法廷文書研究									
【授業の概要・目的】											
<p>イスラーム法廷文書は、往時のイスラーム社会の秩序を形成した司法制度を再構成するための最重要史料であるばかりでなく、社会史、とりわけ家族史研究においても極めて貴重な史料類型である。本授業では、19世紀から20世紀初頭の中央アジア各地域の法廷およびその周囲で作成された、ペルシア語およびチャガタイ語の証書類を取り上げ、その書式、機能を解説するとともに、歴史資料としての可能性についても言及する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム法廷文書の書式とその法学上の意味について理解し、他者に説明することができる。 ・イスラーム法廷文書の歴史資料としての特性を知り、これを自身の研究において利用することができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回～第2回 19世紀から20世紀初頭の中央アジアにおけるイスラーム法廷の地位について 第3回～第4回 中央アジアのイスラーム法廷文書の諸類型について 第4回～第7回 売買文書の書式、および、ペルシア語とチャガタイ語の売買文書の講読 第8回～第10回 買戻約款付き売買文書の書式、および、ペルシア語とチャガタイ語の売買文書の講読 第11回～第13回 金銭ワクフ文書の書式、および、ペルシア語とチャガタイ語の売買文書の講読 第14回～第15回 20世紀初頭の中央アジアの証書台帳について</p>											
【履修要件】											
<p>ペルシア語、チャガタイ語、アラビア語のうち、いずれか一つの文法の既習者であることが望ましいが、これらの言語の学習経験のない他専攻の学生の受講も歓迎する。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>授業内での議論への積極的な参加、および、講読の担当といった観点からの平常点評価とする（100点）。</p>											
【教科書】											
<p>授業の際にプリントを配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する。</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

必ず前回の内容を復習したうえで、各回の授業に臨むこと。また、ペルシア語、アラビア語の既習者については、文書の講読を行う回については必ずテキストを読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

特に無し。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36842 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		井谷 鋼造 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペルシア語古典史料研究									
【授業の概要・目的】											
<p>モンゴル帝国支配時代（1280年以降、1283年まで）にルーム地方（歴史的にはアナトリア）で書かれたペルシア語史料である、イブン・ビービーの作品を写本の写真版と校訂テキストを基にして精読・研究し、文献研究の手法に基づく歴史研究を行なう。本文は参加者が順番に担当した部分を全て読むことにしており、途中で省略する箇所はない。歴史資料の具体的な文体、内容、それが書かれた状況を、この史料を徹底して精読することにより理解させることを授業の目的としている。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業に参加して、この授業で扱っている史料を読みこなすことが出来るようになるれば、研究者として基本的な知識や態度が身についていると判断することが出来る。授業の参加者全てがこの要件を満たすことが出来ないにしても、それに近づく努力目標としての授業であるという意味がある。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Ibn Bībī, al-Awāmir al-`Alā`īya fī al-Umūr al-`Alā`īya, Ankara, 1956. ルーム・セルジューク朝の宮廷で書かれた本書は、13世紀を中心としたアナトリアの歴史を研究するための最も重要な史料である。モンゴル支配時代の西アジアの歴史を正確に把握するためにも必ず参照しなければならない文献である。トルコ共和国イスタンブール市内の図書館に所蔵される、現存唯一の写本の写真版が50年以上前に出版されており、冒頭の約3分の1については校訂テキストが刊行されているので、これに基づいて文献講読と解説を行なう。この作品には韻文も多く、アラビア語やペルシア語の美文解読の能力が求められる。 授業の最初の回はイントロダクション、最終回はまとめを行なう。2-29回目はテキストの講読、内容説明、参加者との討論を行なう。</p>											
【履修要件】											
<p>近世ペルシア語文法の基礎を習得していること。アラビア語についても基礎知識があることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>参加者の受講態度と担当した講読の理解内容を勘案して評価する。</p>											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[教科書]

Ibn Bîbî 『al-Awâmir al-`Alâ'îya fî al-Umûr al-`Alâ'îya』 (Ankara, 1956.)
授業で使用するテキストはプリントして配布する。

[参考書等]

(参考書)
必要な文献や参考資料はコピーして配布する。

[授業外学習(予習・復習)等]

毎回の授業では担当者を決めて行なう。各回の担当者は十分な予習を行い、担当部分の日本語訳・訳注を作成すること。これなくしては授業が進められないので、授業の参加者は必ず予習をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36842 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		磯貝 健一 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		チャガタイ・テュルク語文献入門									
【授業の概要・目的】											
ティムール朝以降の中央アジア史研究に必要なチャガタイ語の文法を解説し、さらに、チャガタイ語で著された年代記、および、イスラーム法廷文書を講読する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・チャガタイ語文法の知識にもとづき、実際にチャガタイ語で書かれた文章の構造を文法にしたがって説明することができる。 ・アラビア文字で表記された各種のチャガタイ語歴史文献を、正確に読解することができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>前期は、J. Eckmann, Chagatay Manualをテキストとして、チャガタイ語文法を解説する。</p> <p>第1回 アラビア文字と、これに対応するローマ字表記について</p> <p>第2回～第4回 名詞の格、人称代名詞、後置詞</p> <p>第5回～第7回 動名詞と副動詞</p> <p>第8回～第12回 動詞(命令、仮定、未来、現在、過去)</p> <p>第13回～第15回 構文(従属節のある文章など)</p> <p>後期は、アラビア文字で表記された年代記、イスラーム法廷文書等を講読する。</p> <p>第16回～第22回 17世紀のホラズムで成立した史書、Abu al-Ghazi Bahadur Khan, Shajara-yi Turkからシャイバーン朝に関連する箇所の購読</p> <p>第23回～第30回 19世紀～20世紀初頭にホラズム地方のイスラーム法廷で作成された、各種証書の購読</p>											
【履修要件】											
現代トルコ語、または、ペルシア語のうち、いずれかの文法を一通り学習していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点(100点)による。平常点は予習状況と達成度による。											
【教科書】											
授業の際にプリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) J. Eckmann 『Chagatay Manual』(Indiana University, Bloomington)											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[授業外学習(予習・復習)等]

文法を解説している期間は、必ず前回の復習をしてから授業に臨むこと。講読の段階に入ったら、当然のことながら毎回の予習が必須となる。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36844 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アラビア語古典史料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>本年度は、マムルーク朝時代を代表する歴史家である al-Maqrizi (ca. 766-845/1364-1442) の年代記 Kitab al-Suluk li-ma`rifat duwal al-muluk を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 Kitab al-Sulukを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
アラビア語(フスハー)文法を習得していること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>											
【教科書】											
講読教材および関連資料は配布する。											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36844 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アラビア語古典史料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>前期に引き続き、マムルーク朝時代の歴史家 al-Maqrizi (ca. 766-845/1364-1442) の年代記 Kitab al-Suluk li-ma`rifat duwal al-muluk を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 Kitab al-Sulukを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
<p>アラビア語(フスハー)文法を習得していること。 前期から続けて受講することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。 評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>											
【教科書】											
講読教材および関連資料は配布する。											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系 7 1

科目ナンバリング		U-LET25 36850 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 井谷 鋼造 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代トルコ語文法・講読									
[授業の概要・目的]											
現代トルコ語文法の基礎を学び、その後現代トルコ語、アラビア文字表記のトルコ語文献の講読をおこなう。現代トルコ語は、現在のトルコ共和国の状況を知るためだけでなく、広く西アジア史、トルコ民族史、イスラーム史を研究する上でも有益な言語である。西南アジア史に関する重要な史料が現代トルコ語訳されている場合も少なくない。これらを活用し、さらにオスマーン朝時代の歴史資料にアクセスするためにもこの授業が開講されている。											
[到達目標]											
現代トルコ語の基礎的な文法事項を確実に習得し、それらの知識を活用してトルコ語の文献を読みこなせるようになることが到達目標である。											
[授業計画と内容]											
トルコ語は、西暦 8 世紀以降現代までの文献言語としての長い歴史を有し、ウイグル語やウズベク語などユーラシアの広範囲で使用されるテュルク系諸語中の代表的で、最も話者数の多い言語である。この授業では単に現代トルコ語の文法を学ぶだけでなく、歴史資料としてのオスマーン・トルコ語の文献を読解できる能力を身につけられるような講読をおこなう。オスマーン朝時代の歴史資料を扱う場合には、アラビア文字表記のトルコ語の知識が必要になるので、アラビア文字、ペルシア語、アラビア語の基礎知識があることが望ましい。1-20回目はトルコ語文法の解説、21-30回目は現代トルコ語及びオスマーン・トルコ語の文献講読を行なう。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
参加者の受講態度と担当した講読の内容をもとに評価する。											
[教科書]											
勝田 茂 『トルコ語文法読本』(大学書林)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する 必要な参考文献等はコピーして配布する。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
文法事項の説明をしている間、予習は特に必要ではないが、授業後の復習は必ず行なうこと。語学の習得には時間をかけて積み重ねていく以外に有効な方法はない。止むを得ない事情で授業に参加できなかった場合は、その回に進んだ箇所を各自で自習しておくこと。テキストの講読に入ってから、必ず予習を行なうこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET25 36850 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		磯貝 健一 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ペルシア語講読									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、15世紀のイランに生まれ、16世紀に中央アジアで没した著名なウラマー、イブン・ルーズビハーンのパルシア語による著作を講読する。イブン・ルーズビハーンはシャーフイー派の法学者である一方、ハディース学者としても著名であった。彼の著作を読むことにより、パルシア語史料の読解技術を高めるだけでなく、イスラーム諸学についての基本的な知識を身に付けることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・パルシア語史料の高度な読解技術を習得し、自身の研究に役立てることができる。 ・法学、ハディース学の領域において、当時のウラマーによりなされた具体的な議論の内容を理解し、その思考様式を他者に説明することができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>前期は、イブン・ルーズビハーンの回想録Mihman-nama-yi Bukharaのうち、シャイバーニー・ハーンの対カザフ遠征への従軍記に相当する箇所を講読する。</p> <p>第1回 著者、および、講読対象となる史料の説明 第2回～第15回 Mihman-nama-yi Bukharaの講読</p> <p>後期は、やはりイブン・ルーズビハーンが著した、イスラーム法に基づく君主の統治マニュアルSuluk al-Mulukのうち、土地税（ウシュルおよびハラージュ）を扱う章を講読する。</p> <p>第16回 講読対象となる史料の説明 第17回～第30回 Suluk al-Mulukの講読</p>											
【履修要件】											
パルシア語文法の学習経験があること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業内での議論への積極的な参加（50点）と平常点（50点）による。平常点は予習状況と達成度による。											
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読)(2)

[教科書]

授業の際にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

まずは文法の復習を心がけて予習すること。古典文を読む際には、専門的な辞書を参照する余裕が欲しい。ただし、受講生各人のペルシア語習得レベルによる。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 文学研究科		東長 靖 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		アラビア語講読									
【授業の概要・目的】											
スーフィズム・タリーカ・聖者信仰を研究する際には、さまざまなジャンルの資料が必要となる。本講義では、これらの資料の代表的なものを順次取り上げ、講読していく。											
【到達目標】											
アラビア語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。同時に、文献を読む際に必要な工具書・参考書の使い方も身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>上記の研究のためには、理論書、列伝・徳行伝、参詣書、年代記、系譜書、用語集など、さまざまなスタイルの資料を扱えるようになる必要がある。本講義では、これらの資料を丹念に読み込む訓練を行う。毎回、可能な限りの分量を読み、次回はその続きを読んでいく。</p> <p>これまでに本講義で取り上げてきた書目は以下の通り。</p> <p>クシャイリー『スーフィー派の言表とその意味の書』（2010）：用語集 ナブハーニー『聖者の奇蹟集成』より「アブー・アッパース・アフマド・ティジャーニー」（2010）：列伝 カーシャーニー『スーフィー用語集』（2011）：用語集 ナーブルスィー『シリア・エジプト・ヒジャーズ地方の旅における本義と転義』（2011）：地理書 ムハンマド・アフマド・クルディー『幽玄の熟知の扱いについての心の照射の書』（2012）：理論書（修行論） ガザーリー『宗教諸学の再興』（2013）：理論書（代表的なスーフィズム理論書） アブドゥルカーヒル・スフラワルディー『修行者たちの作法』（2013）：理論書（スフラワルディー教団の修行規則を書いたもの。神学との整合性を中心に。） ズィリクリー『人名録』およびカッハーラ『著述家辞典』ほか（2014）：人名辞典 タシュキョプリューザーデ『赤いアネモネ』（2015）：ウラマー・スーフィー列伝 ポスネヴィー『叡智の台座注釈』（2015）：写本 サヌースィー『40のタリーカを支える泉』（2016）：修行法 イブン・アラビー『欲望の解釈者』（2016）：アラブ詩 イブン・ザイヤート『スーフィズムの徒へのまなざし』（2017）：聖者伝（マグリブ） アフマド・ザッルーク『スーフィズムの基礎』（2017）：理論書（マグリブ）</p> <p>1回目の講義において、いくつかの候補を挙げ、何を選んで読むかを相談して決める。</p>											
【履修要件】											
初級アラビア語を修得していること。											
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点によって評価する。

[教科書]

授業中に指示する
テキストは当方で用意し、教室で配布する。

[参考書等]

(参考書)

東長靖 『イスラームとスーフィズム』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0721-4
ティエリー・ザルコンヌ 『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』(創元社) ISBN:978-4-422-21212-8 (豊富な図版が特徴。東長靖監修。)
東長靖・今松泰 『イスラーム神秘思想の輝き - 愛と知の探求』(山川出版社) ISBN:978-4-634-47475-8 (前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。)
山内昌之・大塚和夫編 『イスラームを学ぶ人のために』(世界思想社)(I-4 東長靖「スーフィーと教団」参照。絶版なので、図書館で借りて下さい。))
その他、教室で指示する。

[授業外学習(予習・復習)等]

アラビア語の原典講読なので、入念な予習が必要である。辞書・参考図書を十分に活用すること。

(その他(オフィスアワー等))

講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくること。また、詩が出てくる場合も、韻律を調べること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 26901 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋史学)(講義) European History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		小山 哲 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋史学序説									
【授業の概要・目的】											
<p>ヨーロッパ世界では、歴史をどのように認識してきたのであろうか。また、歴史を研究する視角や方法は、時代の変化にともなって、どのように変化してきたのであろうか。この講義では、古代から現代までのヨーロッパにおける歴史認識の歴史を、各時代の全般的な状況をふまえながら概観し、それぞれの時代の歴史叙述の特徴や、歴史研究の方法をめぐる議論を紹介する。本講義をつうじて、古代から現代にいたるヨーロッパ史の流れを把握するとともに、西洋世界における歴史認識の特徴についての理解を深め、「西洋史学」という学問分野の歴史的特質と今日的課題について考える素材を提供することを目標とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・古代から現代にいたるヨーロッパ史の展開を把握し、各時代の全般的な状況について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識や歴史叙述の歴史についての基本的な知識を習得し、それぞれの時代の特徴について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識の特徴についての理解を深め、「西洋史学」という学問分野の歴史的特質と今日的課題について各自の関心に即して考察する。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下のようなテーマをとりあげる予定。</p> <p>第1回 ふたつの問い 序説の序説(その1)</p> <p>第2回 ふたつの問い 序説の序説(その2)</p> <p>第3回 自然哲学から歴史叙述へ ヘロドトスの歴史叙述</p> <p>第4回 可能なかぎり厳密に トウキュディデスの歴史叙述(その1)</p> <p>第5回 ファロクラシー? トウキュディデスの歴史叙述(その2)</p> <p>第6回 ローマからみた「世界史」 ポリュビオスの歴史観</p> <p>第7回 帝国の暗鬱 タキトゥスの描く帝政ローマ</p> <p>第8回 救済史としての歴史 中世ヨーロッパの歴史叙述(その1)</p> <p>第9回 過ぎし年月の物語 中世ヨーロッパの歴史叙述(その2)</p> <p>第10回 普遍史の危機(その1) 人文主義と歴史叙述</p> <p>第11回 普遍史の危機(その2) 啓蒙期の歴史観</p> <p>第12回 ふたつの歴史哲学(その1) ヴォルテールの場合</p> <p>第13回 ふたつの歴史哲学(その2) ヘーゲルの場合</p> <p>第14回 事実は一体どうであったのか ランケの歴史学</p> <p>第15回 前期の授業内容をふまえた総論 (以上、前期)</p> <p>第16回 ランケの日本的領有(その1) 日本における「西洋史学」の成立</p> <p>第17回 ランケの日本的領有(その2) 京都学派とランケ史学</p> <p>第18回 歴史のなかに「繰り返すもの」をみる ブルクハルトの歴史観</p> <p>第19回 病としての歴史的教養 ニーチェの歴史学批判とブルクハルト</p> <p>第20回 人間がつくる歴史、歴史に縛られる人間 マルクスの歴史像</p>											
系共通科目(西洋史学)(講義)(2)へ続く											

系共通科目(西洋史学)(講義)(2)

- 第21回 脱魔術化する世界 マックス・ウェーバーにとっての西洋近代
第22回 日本におけるマックス・ウェーバー受容と「西洋史学」
第23回 人食い鬼としての歴史家 アナール学派の歴史学(その1)
第24回 歴史的時間の多層性 アナール学派の歴史学(その2)
第25回 時系列史から表象の歴史学へ アナール学派の歴史学(その3)
第26回 歴史をとらえる尺度について 世界システム論とミクロストーリー
第27回 17世紀危機論争と日本の「西洋史学」
第28回 ポスト冷戦と歴史研究 ポーランドの場合
第29回 国境を越えて歴史認識を議論するには ポーランド・ドイツ「記憶の場」の挑戦
第30回 後期の授業内容をふまえた総論

フィードバックについては、授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

前期と後期に各1回、レポートの提出を求める。成績の評価は提出されたレポートにもとづいて行う。

授業でとりあげた文献のなかから各受講生が1ないし複数の文献を選択し、その内容について論述することをレポート課題の内容とする。レポートの評価にあたっては、文献の読解の正確さ、ヨーロッパ世界における歴史認識の特徴にかんする理解度、文章表現や論理構成の適切さなどを総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

教科書は使用しないが、授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

服部良久・南川高志・小山哲・金澤周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』(京都大学学術出版会) ISBN:978-4-87698-948-5(京都大学における西洋史学研究・教育への導入解説をおこなっており、本講義全体を通じて参考となるであろう。)

上記の本以外の参考文献については、テーマに応じて、授業中に紹介する。

【授業外学習(予習・復習)等】

授業のなかで、関連する文献のリストを提示する予定である。受講者には、各自の関心にしたがってリストから文献を選び、読み進めていくことを期待する。

系共通科目(西洋史学)(講義)(3)へ続く

系共通科目(西洋史学)(講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		南川 高志 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古代ローマ人の『生き方』と感情に関する歴史学研究 (I)									
[授業の概要・目的]											
<p>古代ローマ人は、イタリア半島の1都市から出発してその国家を拡大し、前1世紀後半には地中海周辺地域全域を統治下に入れ、さらにアルプス山脈やドナウ川を越えて、紀元2世紀にはヨーロッパ内陸部をも広く支配する史上稀な大国家となった。その統治は、後のヨーロッパの政治と文化の歩みに限りなく重要な影響を残したが、この世界史上第1級の意義を持つ古代ローマ人の国家、ローマ帝国では、人々はどのような生活をしていただろうか。本講義は、こうした素朴な問題関心からスタートする。そして、古代ローマ人が生きた社会の構造について分析するとともに、人々の日常を再構成して、その実相に迫りたい。古代ローマ人がどのように生き、またどのような思いを抱いて暮らしていたかを、史料が許す限り明らかにすることが、本講義の目的である。</p> <p>本講義は前期開講のIと後期開講のIIから成る。Iでは、古代ローマ人の生きた社会の構造を明らかにするとともに、日常生活の再構成を通じた考察に力点を置き、「生き方」の解明に努める。IIでは、古代ローマ社会の様々な局面を取り上げつつ、そこに見られる人々の「感情」を問題にし、歴史の深層から「ローマ帝国」の実体を解明することを試みる。</p>											
[到達目標]											
<p>古代ローマ人の社会の性格を理解し、また現代社会を含む他の時代の社会との差異を把握した上で、古代の人々の心のありようにまで至る歴史学的認識を得ることが到達目標である。具体的には、受講者が帝政期のローマ社会の性格やローマ人の生き方について正確な知識を持ったうえで、ローマ人の感情に関する問題について適切な見解を示せるようになることが目標となる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>本講義では、まず第1回目に、序論として研究対象となるローマ帝国の歴史を概観するとともに、「ローマ人」の性格の変化を説明して、いつの時代のどの地域の「ローマ社会」を取り上げるかについて解説する。</p> <p>第2回目から、以下のテーマについての講義をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 帝政初期のローマ帝国の社会構成 2回 ローマ市民の日常生活再構成 3~4回 ローマ市民の家族と親族 3回 都市の役割 2~3回 ローマ人の生き方 2回 <p>さらに、試験とフィードバックをおこなう。フィードバックは、担当教員が研究室で待機して本講義に関する質問を受け付ける形で実施する。</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

受講にあたっては、古代ギリシア語やラテン語、および西洋古代史に関する知識を持っていることを前提としてはいない。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

筆記試験をおこなう。
講義内容の要点に関する理解度を確認するために筆記試験をおこない、その結果によって評価する。
講義をした範囲に関して、到達目標に掲げた水準に達しているかどうかで達成度を測ることとする。

[教科書]

日本語に訳した史料などをプリントで配布する。図版については、主にパワーポイント・スライドで紹介する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義で担当者が紹介する文献をできるだけ参照することが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

後期の同じ曜日・時限に開講される特殊講義「古代ローマ人の「生き方」と感情に関する歴史学研究(II)」も連続して受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		南川 高志 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古代ローマ人の「生き方」と感情に関する歴史学研究(II)									
[授業の概要・目的]											
<p>古代ローマ人は、イタリア半島の1都市から出発してその国家を拡大し、前1世紀後半には地中海周辺地域全域を統治下に入れ、さらにアルプス山脈やドナウ川を越えて、紀元2世紀にはヨーロッパ内陸部をも広く支配する史上稀な大国家となった。その統治は、後のヨーロッパの政治と文化の歩みに限りなく重要な影響を残したが、この世界史上第1級の意義を持つ古代ローマ人の国家、ローマ帝国では、人々はどのような生活をしていただろうか。本講義は、こうした素朴な問題関心からスタートする。そして、古代ローマ人が生きた社会の構造について分析するとともに、人々の日常を再構成して、その実相に迫りたい。古代ローマ人がどのように生き、またどのような思いを抱いて暮らしていたかを、史料が許す限り明らかにすることが、本講義の目的である。</p> <p>本講義は前期開講のIと後期開講のIIから成る。Iでは、古代ローマ人の生きた社会の構造を明らかにするとともに、日常生活の再構成を通じた考察に力点を置き、「生き方」の解明に努める。IIでは、古代ローマ社会の様々な局面を取り上げつつ、そこに見られる人々の「感情」を問題にし、歴史の深層から「ローマ帝国」の実体を解明することを試みる。</p>											
[到達目標]											
<p>古代ローマ人の社会の性格を理解し、また現代社会を含む他の時代の社会との差異を把握した上で、古代の人々の心のありようにまで至る歴史学的認識を得ることが到達目標である。具体的には、受講者が帝政期のローマ社会の性格やローマ人の生き方について正確な知識を持ったうえで、ローマ人の感情に関する問題について適切な見解を示せるようになることが目標となる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>本講義では、まず第1回目に、序論としてローマ帝国史とローマ人の日常生活について概観し、加えて、過去に生きた人々の感情を捉える方法についても解説する。</p> <p>第2回目から、以下のテーマについての講義をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 帝政初期のローマ帝国社会 2回 ローマ市民の一生の再構成 3～4回 ローマ人の教育と教養 3回 ローマ人の死と葬儀 2～3回 ローマ人の生き方 2回 <p>さらに、試験とフィードバックをおこなう。フィードバックは、担当教員が研究室で待機して本講義に関する質問を受け付ける形で実施する。</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

受講にあたっては、古代ギリシア語やラテン語、および西洋古代史に関する知識を持っていることを前提とはしていない。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

筆記試験をおこなう。
講義内容の要点に関する理解度を確認するために筆記試験をおこない、その結果によって評価する。
講義をした範囲に関して、到達目標に掲げた水準に達しているかどうかで達成度を測ることとする。

[教科書]

日本語に訳した史料などをプリントで配布する。図版については、主にパワーポイント・スライドで紹介する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義で担当者が紹介する文献をできるだけ参照することが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

前期の同じ曜日・時限に開講される「古代ローマ人の「生き方」と感情に関する歴史学研究(I)」を受講しておくことが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		金澤 周作 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		博愛の帝国 イギリス史とチャリティ(比較史と枠組み)									
【授業の概要・目的】											
<p>近世以降、イギリスではチャリティ(いわゆる慈善;民間非営利の弱者救済活動)が自然化し、社会インフラから人々の物の見方に至るまで、ありとあらゆるところに少なからぬ影響を及ぼしてきた。国家福祉が充実するようになった20世紀半ば以降においてもチャリティのプレゼンスは顕著である。本講義では、そのようなイギリスの際立った特殊性を、他者救済の世界史の中に位置付けて浮かび上がらせるとともに、わたしたちの多くにとっては異質で異様に見えるチャリティ実践の数々を具体的に論じてゆく。とりわけ、他の時代・文化圏・宗教圏とのチャリティ的なるものの位置づけの違いに注意しながら講義を進めていく。</p>											
【到達目標】											
<p>貧富の格差が急速に拡大した「世界の工場」イギリスにおいてチャリティが果たした役割を理解できるようになる。19世紀を通じて、思想的にさまざまな仕方で考察され評価される「チャリティ」を、歴史的なパースペクティブのもとで相対化できるようになる。「チャリティ」を現代的な課題としてとらえることができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本講義では、数回ずつの講義で小括できるいくつかのサブ・テーマに分けて、以下の順序で議論を進めていく(全15回)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 チャリティが当たり前な社会とはどのようなものか? 2. 他者救済史とイギリス 世界とヨーロッパのなかで 3. チャリティを歴史的にとらえるための基本構図 4. 資本主義社会と寄付者民主主義 5. 結論と展望 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>講義内容の要点にかんする理解度を確認するために筆記試験を行ない、その結果によって評価する。講義をした範囲に関して、到達目標に掲げた水準に達しているかどうかで達成度を測ることとする。</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義で担当者が紹介する文献をできるだけ参照することが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		金澤 周作 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		博愛の帝国 イギリス史とチャリティ(帝国、戦争、現代)									
【授業の概要・目的】											
<p>近世以降、イギリスではチャリティ(いわゆる慈善;民間非営利の弱者救済活動)が自然化し、社会インフラから人々の物の見方に至るまで、ありとあらゆるところに少なからぬ影響を及ぼしてきた。国家福祉が充実するようになった20世紀半ば以降においてもチャリティのプレゼンスは顕著である。本講義では、そのようなイギリスの際立った特殊性を、他者救済の世界史の中に位置付けて浮かび上がらせるとともに、わたしたちの多くにとっては異質で異様に見えるチャリティ実践の数々を具体的に論じてゆく。とりわけ、イギリスが展開した国外での諸チャリティのありかたと、20世紀以降、二つの世界大戦と福祉国家化の時代におけるチャリティのはたらきについて、詳しく扱う。</p>											
【到達目標】											
<p>「ゆりかごから墓場まで」の福祉国家イギリスにおいて「チャリティ」が果たした役割を理解できるようになる。海外植民地や自治領などにおける「チャリティ」の機能を理解できるようになる。「チャリティ」を現代的な課題としてとらえることができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本講義では、数回ずつの講義で小括できるいくつかのサブ・テーマに分けて、以下の順序で議論を進めていく(全15回)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 近現代イギリス史、戦争、帝国 2. 帝国とチャリティ 3. 国際社会の中のチャリティ 4. 戦争国家・福祉国家とチャリティ 5. 結論と展望 											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

講義内容の要点にかんする理解度を確認するために筆記試験を行ない、その結果によって評価する。
講義をした範囲に関して、到達目標に掲げた水準に達しているかどうかで達成度を測ることとする。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義で担当者が紹介する文献をできるだけ参照することが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア帝国とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下のザカフカス(トランスコーカサス)史を、グルジア(ジョージア)中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチン人やグルジア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。ザカフカスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出し、それはグルジア人などの現地住民にもフィードバックされた。治安の悪さで悪名高いザカフカスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とグルジア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。</p>											
【到達目標】											
ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2,3回：「半アジア人」</p> <p>第4,5回：露土戦争</p> <p>第6,7回：「ムスリム・グルジア人」の文字と宗教</p> <p>第8,9回：油田とマンガン鉱山</p> <p>第10,11回：マルクス主義サークル</p> <p>第12,13回：義賊と革命</p> <p>第14回：1905年</p> <p>第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア革命とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>南カフカスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージア(グルジア)の社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南カフカスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。</p>											
【到達目標】											
<p>第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション 第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命 第4,5回：バルカン戦争と戦争準備 第6回：敵性国民としてのドイツ人 第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」 第9,10回：社会主義者の戦争 第11回：ロシア革命とカフカス 第12回：ジョージア民主共和国の成立 第13,14回：民主共和国と地域問題 第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。</p>											
【教科書】											
<p>プリントを配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 非常勤講師 山田 雅彦 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中世西ヨーロッパの貨幣史の再検討 - デナリウス銀貨の世界を読む -									
[授業の概要・目的]											
<p>カロリング時代に新たに誕生し、中世を通して発行された貨幣にデナリウスdenarius銀貨がある。本講義ではこの貨幣の歴史的推移にあらためて注目する。1リブラ=20ソリドゥス=240デナリウスとする貨幣単位の新しい関係が設定され、実体貨幣はデナリウス銀貨のみでその重量・品位・型は勅令によって定める幣制は、8世紀末のシャルルマーニュの改革に端を発する。銀貨の本格的流通そのものはすでに7世紀後半からイングランドを中心に環北海エリアで始まっていたが、カロリング朝の幣制はその後イングランドでも採用され、西欧社会全域の貨幣体系の基礎となったといわれる。ところが、現実のデナリウス銀貨は早くも9世紀後半から徐々に変質していく。高品位の銀貨発行が維持されたイングランドを唯一例外として、大陸の王国、あるいはその内部に生まれた諸領邦では、11-12世紀にもなると「悪貨」が問題となるほどの混乱が見られた。さらに、中世後期のデナリウス銀貨に至ってはもはや商人の使用する貨幣ではなくなる。13世紀以降の大規模取引においては、新しい高額銀貨（例えばフランスのグロ・トゥールノワなど）と金貨（フィレンツェのフローリンなど）こそが基幹通貨であり、貶質著しいデナリウス銀貨は経済史の大道から見ると、もはや二流の脇役でしかないであろう。しかし、重要なのはこの時代においてもデナリウス貨が発行され続け、それを使用する人々がいたという事実である。講義では中世フランス王国の貨幣流通の実態分析を通して、デナリウス銀貨の存在意義を通時的に、また地域比較史的に検討することで、中世貨幣史の理解をさらに深めていきたい。</p>											
[到達目標]											
<p>西欧中世史について、特にフランス王国の貨幣と商品流通の歴史の基本的な流れを理解し、中世西欧の経済と社会についての広い教養を身につける。</p> <p>貨幣史に関する研究史の推移をみるなかで、歴史叙述・貨幣記述が変化していく様、そして現在の研究水準がどこまで来ているのか、研究史の変遷について知見を深める。</p> <p>より一般的には、邦語文献を精密に読解し、さらに同時代文献や貨幣素材をもとにどのように歴史的な事象を再現することができるのか、その方法論の基礎を身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>本講義では、メロヴィング時代の後期から14世紀初めまでのフランス王国北部の諸事例を中心にしながら、通史的な展開で各時代の問題点を提示し、研究史的な展開を提示しながら今日の状況をまとめながら次の時代へと進んでいくが、9 - 12世紀を検討を考察の中心に置いているので、特にこの時代に関しては事例分析を相当数はさむこととなる。</p> <p>導入：社会経済史のなかの貨幣史の存在 ピレンヌテーゼの銀貨問題 メロヴィング時代の北海経済と銀貨 カロリング初期の幣制改革の意味 カロリング中期の幣制改革 - ピトル勅令を中心に - ポスト・カロリング時代のデナリウス（1）コルビー修道院の貨幣の場合</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

ポスト・カロリング時代のデナリウス(2)カントヴィック貨の場合
11-12世紀の地方貨幣についての再検討(2)北フランスの全般的状況
11-12世紀の地方貨幣についての再検討(1)コルビー貨とアミアン貨に注目して
11-12世紀におけるプロヴァン貨の流通事例
11-12世紀における有力貨としてのパリ貨・トゥール貨の登場
11-12世紀の経済に何が起きていたのか - 市場史との接合 -
13世紀における大型貨への登場と従来貨
中世後期のデナリウス貨幣
期末試験

* フィードバック方法については期末試験の際に告知します。

【履修要件】

高校で世界史Bを履修していなくても大きな問題はないが、時代区分や代表的な人物の名称など、基本的な歴史事項・歴史事象に関する説明はあえておこなわないので、各自で次の時間に関わる事項については予習をしてのぞんでほしい。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

定期試験

なお、試験においては論述方式をとるので、内容面だけでなく、論理的な記述を重視する。

【教科書】

毎回、授業内容の流れを記したレジュメと関連資料プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

西欧中世の貨幣史に限らず、社会経済史、政治史、都市史等に関して、種々の文献を随時紹介していきます。欧語文献についても中心的な者をできるだけ紹介します。

【授業外学習(予習・復習)等】

毎回、配付した資料についてはあらためて目を通しておきてください。次の授業でそれを使って簡単な復習からは入りますので、その際に適宜内容を確認します。

(その他(オフィスアワー等))

質問がある時は、授業後の時間を使って聞いてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 西岡 健司 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中世スコットランドにおけるネイション形成									
【授業の概要・目的】											
<p>中世のブリテン諸島北部では、エスニシティの異なる多様な人間集団が交錯する中で、長期にわたる歴史的過程を経て単一ネイションとしての「スコットランド人」が形成された。本講義では、西欧カトリック世界の北端に位置するスコットランドにおいて、いかにして単一のネイションが実現したのか、そのプロセスについて考察する。また、ネイションをめぐるいわゆる近代主義/原初主義の議論を念頭に、中世「スコットランド人」の実相の具体的な分析を通して、従来の中世的ネイションの理解についても再考する。</p>											
【到達目標】											
<p>中世スコットランドのネイションの特質を理解すると同時に、ネイションの多様性と問題性について歴史的に考察する力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 現代スコットランドにおけるネイション意識 第3回 ネイションとエスニシティ 第4～5回 中世スコットランド史上の民集団 第6～14回 中世スコットランド・ネイションの形成 (以下の各項目について、それぞれ3回分程度をかけて考察する) ・起源神話と歴史叙述 ・王権と王国共同体 ・キリスト教の影響 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点：20% (各回終了時にコミュニケーション・シートを提出) レポート：80% (講義内容の理解を前提に、所定の論点に関して独自の議論を展開するレポートを最終回に提出)</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
資料としてプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

青山吉信編 『世界歴史体系 イギリス史1 - 先史～中世 - 』(山川出版社) ISBN:4634460106
ロザリンド・ミチスン編 『スコットランド史 - その意義と可能性 - 』(未来社) ISBN:4624111680
その他の専門的な研究文献については、講義中に適宜紹介する。

[授業外学習(予習・復習)等]

講義中に紹介する参考文献を可能な限り読むことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		小関 隆 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イギリスの1960年代									
【授業の概要・目的】											
<p>「スウィング・シクスティーズ」などとも評されるイギリスの1960年代は、ビートルズとミニ・スカートが象徴的なアイテムとなるように、文化革命が花開いた時代として知られる。「豊かな社会」の到来を前提に、若者の台頭と性的解放が進み、広範囲にわたる芸術的革新が実現されて、イギリスは世界的な注目を集める存在となった。しかし、秩序と権威の崩壊が始まり、道徳的な相対主義がもてはやされた時代として、1960年代をネガティブに把握する議論も根強い。この授業では、1960年代のさまざまな動向の中に後のサッチャリズムの歴史的前提を見出すことを試みる。</p>											
【到達目標】											
イギリスの1960年代を、国際的な動向も視野に収めながら、現代史の大きな流れの中で把握する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
<p>(1)さまざまな1960年代論（1回） (2)「豊かな社会」という前提（1回） (3)若者の台頭（1回） (4)文化革命の諸相（音楽、ファッション、映画、アート、ドラッグ、等）（2回） (5)ビートルズとロックの覇権（2回） (6)「許容する社会」の到来（1回） (7)性的解放（1回） (8)1968年（1回） (9)人種問題（1回） (10)モラリズムの反撃（2回） (11)二大政党の1960年代（1回） (12)総括（1回）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートによる評価を基本とする。											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

以下の文献を参照することが望ましい。

長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017年。

セリーナ・トッド(近藤康裕訳)『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』みすず書房、2016年。

ピーター・クラーク(西沢保ほか訳)『イギリス現代史、1900 - 2000』名古屋大学出版会、2004年。

(その他(オフィスアワー等))

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		小関 隆 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		サッチャー時代のイギリス									
【授業の概要・目的】											
今年度の授業は昨年度後期の「サッチャリズム序説」の増補版である。イギリス現代史上の決定的な転換期といわれるサッチャー時代（1979～90年）はイギリス社会をいかに変え、その変化は今日のイギリスをいかに規定しているのか、経済、社会保障、労使関係、外交、といった主要な政策領域に加え、サッチャーが折に触れて強調したモラルの改革をも視野に収めて検討することが主たる課題となる。											
【到達目標】											
サッチャリズムの時代がいかなる意味でイギリス現代史上の転換期であったか、第二次世界大戦から今日に至る長いパースペクティブの中で把握する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
(1)マーガレット・サッチャーの形成（1回） (2)「コンセンサス」批判（1回） (3)モラルの改革（2回） (4)経済政策（2回） (5)労使関係（2回） (6)福祉国家の解体？（2回） (7)アメリカとヨーロッパ（2回） (8)権威主義的リーダーシップ（1回） (9)サッチャー以降のサッチャリズム（1回） (10)総括（1回）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートによる評価を基本とする。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

以下の文献を参照することが望ましい。

オーウェン・ジョーンズ(依田卓巳訳)『チャヴ：弱者を敵視する社会』海と月社、2017年。
セリーナ・トッド(近藤康裕訳)『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』みすず書房、2016年。
ピーター・クラーク(西沢保ほか訳)『イギリス現代史、1900 - 2000』名古屋大学出版会、2004年。
長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017年。

(その他(オフィスアワー等))

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学 教授 桑山 由文 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		元首政期ローマ帝国の東方「辺境」									
【授業の概要・目的】											
<p>前1世紀後半のプトレマイオス朝滅亡後も、ローマ帝国東部辺境とその周辺には、さまざまな小王国が散在した。これらの国々は、建前はともかく、現実にはローマ帝国にほぼ従属しており、属州を通じた直接統治を補完する存在として、帝国の東方統治の重要な一翼を担っていた。しかし、後1世紀後半のフラウィウス朝期には、これら従属王国の属州への併合が本格的に進展し、エウフラテス川以西までが広く属州化していくこととなる。</p> <p>本講義の目的の第一は、ローマ帝国による、これら従属王国を通じた東方統治の在り方と王国併合後の東方政策の変容とを解明することにより、古代帝国による支配の本質を明らかにすることにある。</p> <p>さらに、これら従属諸王国はヘレニズム期だけでなく、古代オリエント期にまでも遡る文化的社会的伝統を有した。元首政期に入り、こうした地域と本格的に接触し、取り込んだことで、ローマ帝国中央の文化と社会はどのように変化したのか。この点を考察することにより、世界史上のローマ帝国の特質を明確にすることが、本講義の目的の第二である。</p>											
【到達目標】											
ローマ帝国による支配の在り方およびその史的展開について一定の認識を得、それにより、ローマ帝国（とりわけその東部）の世界史的意義を考察できるようになることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 共和政ローマの東方進出 3. アントニウスと従属諸王国 4. アウグストゥス帝の東方政策1：小アジア 5. アウグストゥス帝の東方政策2：シリア 6. ユリウス=クラウディウス朝と従属諸王国 7. フラウィウス朝の成立とアルメニア戦争 8. フラウィウス朝における東部辺境の再編1：コンマゲネとエメサ 9. フラウィウス朝における東部辺境の再編2：アラン人との接触 10. 従属諸王国の支配者層とその変容 11. コンマゲネ王家とギリシア知識人 12. 東部出身元老院議員の心性 13. 五賢帝期の東方「辺境」 14. 総括 15. 期末試験 16. フィードバック 											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

定期試験（筆記）および平常点

【教科書】

使用しない
授業の際にプリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
服部良久，南川高志，山辺規子 『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』（ミネルヴァ書房）

【授業外学習（予習・復習）等】

授業中にも適宜指示するが，ローマ史の基本的な流れおよび，各回の授業内容についての基礎知識を，上記参考書などから得ておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 斉藤 恵太 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世ヨーロッパと三十年戦争									
【授業の概要・目的】											
西洋史において、およそ15世紀後半から18世紀後半にかけての300年は近世と呼ばれる。ヨーロッパではこの時期に中世と異なる新しい政治社会がかたちづくられた。本講義では、そうした変化の諸相について、近世のちょうど真ん中に位置する17世紀を中心に見ていく。特に授業の後半では、具体的な題材として三十年戦争（1618～1648）に焦点を絞る。											
【到達目標】											
1．近世という時代の特徴を、古代～現代の長い時間軸のなかで考える。 2．近世史を例に、ヨーロッパの諸地域を俯瞰し比較する視座を築く。 3．グローバル化の初期における世界とヨーロッパの関係について考える。 4．歴史において政治・社会・経済・軍事といった諸分野が相互にどのように連関しているのかを考える。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション：時代区分と地理区分											
第2～4回 ヨーロッパの「国のかたち」問題 中近世における「国のかたち」について、英独仏を中心に3週にわたって比較検討する (2．英仏百年戦争、3．神聖ローマ帝国、4．宗教改革と三十年戦争)											
第5～7回 ヨーロッパの拡大と「グローバル化」 ヨーロッパの世界進出とその影響について3週にわたって考察する (5．中世ヨーロッパの拡大、6．近代世界システムと軍事革命、7．第二次英仏百年戦争)											
第8～10回 宿営社会の住民たち：表象と実像 近世ヨーロッパにおける社会の成り立ちについて、軍隊を一つの糸口として3週にわたって考察する (8．表象のなかの軍隊、9．宿営社会の住民たち、10．貴族・農村・都市)											
第11～15回 三十年戦争と神聖ローマ帝国 ここまで論じてきた近世史の長期的な時間軸と広域的な空間軸のなかで、三十年戦争はどのような意味を持つのか。構造、人物、事件の絡み合う具体的な文脈を解きほぐすなかで検討する (11．バイエルン公マクシミリアン一世、12．領邦の行財政組織と軍隊、13．支配エリートの社会的変容、14．皇帝権の射程、15．傭兵隊長ヴェルトの反乱)											
括弧内に示した各回のテーマは、講義の進行状況などにより変更する可能性がある。											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点：30%

各回終了時にコミュニケーション・シートを提出

期末レポート：70%

講義内容に基づくレポートを最終回に提出すること。大枠となる論題等については授業で指示する。

【教科書】

使用しない

講義資料として毎回パワーポイントを提示する。

【参考書等】

(参考書)

近藤和彦 『近世ヨーロッパ』 (山川出版社) ISBN:4634349523

ピーター・H・ウィルソン 『神聖ローマ帝国』 (岩波書店) ISBN:4000270974

Geoffrey Parker 『The Thirty Years War』 (Routledge) ISBN:0415128838

その他の文献については講義中に適宜紹介する。

【授業外学習(予習・復習)等】

授業の前に各回のテーマについて各自で調べ、概要を把握しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は、授業終了後にも受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(演習Ⅲ) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 (西洋中近世史演習)									
【授業の概要・目的】											
中世から近世にかけてのヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献を読解し、また、個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパにおける「中世」・「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 ・受講生各自が研究発表を行なうことにより、各受講生の専門的な研究を深化させるとともに、発表に説得力をもたせるにはどのような工夫が必要かを考え、実践する経験を積む。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヨーロッパ史における「中世」と「近世」の時代区分については、さまざまな議論が積み重ねられてきた。この問題を新たな視点から再考する次の本をとりあげ、その内容を正確に理解するとともに、研究の視角や考察の特徴について議論する。</p> <p>James Muldoon (ed.), Bridging the Medieval-Modern Divide: Medieval Themes in the World of the Reformation, Ashgate, 2013.</p> <p>参加者全員による討論をつうじて、ヨーロッパ史における「中世」・「近世」とはどのような時代か、中・近世史を研究する手がかりとなる史料にはどのような特徴があるか、この時代を理解するためにはどのような視点や研究の手法が有効か、といった問題を、さまざまな角度から検討する。前期(15回)は、J. Muldoon編の論文集と、関連する諸文献を読み、内容を理解したうえで、上記の諸問題について議論する。後期(15回)には、参加者がそれぞれ興味をもつテーマについて研究発表を行い、それにもとづいて全員で討論を行う機会を設ける予定である。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋史学(演習Ⅲ)(2)へ続く -----											

西洋史学(演習Ⅲ)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示、研究発表、討論への参加の度合いにもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。

[教科書]

使用するテキストの入手については、別途指示する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

- ・ 毎回、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・ 後期には、受講生各自が関心のあるテーマについて個別発表を行なうので、そのための研究を各自で進めておくことが必要である。
- ・ 議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36946 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(演習Ⅳ) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		金澤 周作 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 (西洋近代史演習)									
【授業の概要・目的】											
この演習では、西洋の近代(18世紀半～20世紀初頭)を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、まとまった分量の欧米の研究文献を精読することと、個別の自由発表を行うことを課す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
近代史研究は、対象とする場所(国や地域)と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、演習の前半(前期)では、1～2回目にイントロダクションを行ったうえで、3～13回に、大きくまた斬新なテーマを多方面から詳細に扱っている研究文献(英語)を、分担を決めて読んでいく。そして14～15回で総括をする。こうして、広い視野を学び、さまざまな方法論に触れ、同時に西洋史研究に不可欠な、英語文献を正確に読解する力を養う。さらに、内容について活発な議論がなされることを期待している。演習の後半(後期)では、1回のイントロダクションの後、2～14回に、各受講者に、日ごろの研究成果を報告してもらい、15回目に総括する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
演習内報告(回数は人数によって異なる)が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。											
【教科書】											
テキストについては第1回の演習日に指定し、コピーして配布する。											
----- 西洋史学(演習Ⅳ)(2)へ続く -----											

西洋史学(演習Ⅳ)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

前期における各回の英語文献の予習は必須。内容理解を深めるために、関連する日本語文献も復習を兼ねて適宜読み進めていくこと。後期の自由報告を行うための準備はおこたりにく進めるものとし、演習での指摘を活かして勉学を継続すること。

(その他(オフィスアワー等))

受講者に対するこの演習の効果は、文献を事前にどれだけしっかり読み込んだかに左右される。ただ読むだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 26956 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 文学研究科		藤井 俊之 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		独書講読 I									
【授業の概要・目的】											
Illouz, Eva: Gefühle in Zeiten des Kapitalismus. Frank Furt am Main 2007. を読む。											
ある人物の語る歴史がどのようなものであるかは、語り手である当人が現代をどのように考えているかに左右される。現代を資本主義の時代と規定する本書の著者エヴァ・イルーズは、人間の歴史を感情という側面から照らしたそうとする。通例、感情という心的能力は理性的判断に劣るものとされ、社会生活においてはその抑制が求められる。その一方で、人々の喜怒哀楽が商業的なマーケティングの対象にされているのが現代であるとする著者は、本書において、客観性を重んじる態度の裏面で軽視されてきた感情という要素に焦点を合わせている。感情は単に個人的、主観的なものではなく、そもそも社会的、客観的な側面を備えている。しかしだからこそ、感情が売り物となった現代において、商品としての感情をひとは自分のものにできないという逆説が生じる。この逆説が生じてきた歴史的経緯を解き明かそうとする本書を読み解くことで、現代において歴史を語ることの意味について考えたい。											
【到達目標】											
必要分野での文献を読み解けるドイツ語の読解能力を養う。また、文献に現れる引用の読解を通じて、テキストの背景となる歴史的事象を考慮することを学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第一回目にイントロダクションを置いて、その後の授業はテキストの訳読を中心に進める。その際に、全員が一度は担当を持つようにする。授業は15回全てを読解にあて、最後に、全体の総括として期末にレポートを課す。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と期末レポートで採点する。授業の際には各自が必ず訳読を担当することが求められる。それを踏まえて、期末レポートで各自の理解を測りたい。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業に備えて予め文献のドイツ語の予習をすることが必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 26956 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 文学研究科		藤井 俊之 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		独書講読 II									
【授業の概要・目的】											
Adorno, Theodor W.: Gesellschaft.(1965) In: Gesammelte Schriften. Bd. 8, Frankfurt am Main 2003, S. 9-19. を読む。											
人間の歴史は共同体の成立とともに始まる。神話や物語形式に託して世界の成り立ちを語ろうとする人々の行為は、社会がその構成員である個々人を媒体にして自らの記憶を時間の継起のなかで伝達しようとする試みであり、歴史もまたそうした営みから生じた。しかし、歴史が社会の記憶であるとして、それによって自己の同一性を確立する社会の正体を、歴史を読み解くことで理解できるだろうか。そもそも、社会の記憶として成立した歴史とは、「社会が自分自身について語る」という自己言及の試みであり、その意味で社会の客観的な記述ではありえない。つまり、歴史を語ることの困難は、社会が自らを省みることの困難に起因するのだと言える。授業で取り上げるアドルノの論文「社会Gesellschaft」は、ナチスを体験した第二次大戦後のドイツで書かれたものであり、まさに上で述べた社会の自己省察の可能性を問うている。この点を踏まえ、本論文の精読を通じては、社会を構成する個人の意味についても考えたい。											
【到達目標】											
必要分野での文献を読み解けるドイツ語の読解能力を養う。また、文献に現れる引用の読解を通じて、テキストの背景となる歴史的事象を考慮することを学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第一回目にイントロダクションを置いて、その後の授業はテキストの訳読を中心に進める。その際に、全員が一度は担当を持つようにする。授業は15回全てを読解にあて、最後に、全体の総括として期末にレポートを課す。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と期末レポートで採点する。授業の際には各自が必ず訳読を担当することが求められる。それを踏まえて、期末レポートで各自の理解を測りたい。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業に備えて予め文献のドイツ語の予習をすることが必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 26957 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 田中 祐理子 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
[授業の概要・目的]											
この授業ではフランスの政治哲学者クロード・ルフォールの論集 (Claude Lefort, Essais sur le politique, 1986) から、冒頭の論考「民主主義という問題」をとりあげて精読する。授業では毎回学生数名が訳出を分担し、全員で訳と内容を検討しながら読み進める。フランス語で書かれた専門的研究論文を読む基礎的な読解力を身につけるとともに、フランス革命研究の基本的語彙・問題設定を知ることを目指す。導入および授業内で論考の背景を学ぶ機会を作り、ルフォールの議論の全体像にも触れながら、フランス史と近代ヨーロッパ型政治思想との関わりについても考察する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ フランス語で書かれた研究論文を読む基礎読解力を身につける。 ・ 近代フランス史および社会・政治論の基礎用語、概念を学ぶ。 											
[授業計画と内容]											
第1回 オリエンテーション 第2-3回 テキストと著者Lefortに関する導入的紹介 第4-14回 担当者によるテキスト訳出と会読 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。初学者は授業初回に申し出ること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業での訳出担当と期末レポート (各 50%) で評価する。											
[教科書]											
授業でテキストを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習 (予習・復習) 等]											
各回の該当箇所を事前に確認するので、全員が出席時にはテキストを読んでいること。											
(その他 (オフィスアワー等))											
外国語修習を第一の目的とした授業とするので、継続的・能動的な授業参加に努めること。質問は適宜受けつけるので、積極的に教師を活用すること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系 9 2

科目ナンバリング		U-LET26 26957 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 田中 祐理子 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
[授業の概要・目的]											
この授業では、ポーランドの思想家ブロニスラフ・バチコの論集 (Bronislaw Baczko, Politiques de la Révolution française, 2008) から、冒頭の論考「民主主義の諸制度と革命の衝撃」をとりあげて精読する。授業では毎回学生数名が訳出を担当し、全員で訳と内容を検討しながら読み進める。フランス語で書かれた専門的研究論文を読む基礎的な読解力を身につけるとともに、フランス革命研究の問題設定と、現代政治・社会的諸状況との歴史的関連を考察することに努める。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語で書かれた研究論文を読む基礎読解力を身につける。 ・近代フランス史および社会・政治論の基礎用語、概念を学ぶ。 											
[授業計画と内容]											
第1回 オリエンテーション 第2-3回 テキストと著者Baczkoに関する導入的紹介 第4-14回 担当者によるテキスト訳出と会読 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。初学者は授業初回に申し出ること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業での訳出担当と期末レポート(各50%)で評価する。											
[教科書]											
授業でテキストを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
各回の該当箇所を事前に確認するので、全員が出席時にはテキストを読んでいること。											
(その他(オフィスアワー等))											
外国語修習を第一の目的とした授業とするので、継続的・能動的な授業参加に努めること。質問は適宜受けつけるので、積極的に教師を活用すること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系 9 3

科目ナンバリング		U-LET26 26958 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
[授業の概要・目的]											
19世紀の評論の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および特に評論的・論文的な文章の読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
以下をテキストとする予定である。											
(1866) , !											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。											
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
露和辞典は研究社出版のものを所持していることが望ましい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET26 26958 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 2									
[授業の概要・目的]											
19世紀の評論の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および特に評論的・論文的な文章の読解力を向上させる。											
[到達目標]											
19世紀のロシア語の文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、以下をテキストとする予定である。											
(1866) , !											
初回授業時に前半の要約を配布し、後期のみ受講者にも不都合のないようにする。 ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。											
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、火曜4限とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET26 36961 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ポーランド書講読									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究や歴史叙述にかかわる概念や語彙についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ポーランドの歴史について、ポーランド語のテキストを読むことをつうじて理解を深める。 ・歴史的な叙述で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>20世紀のポーランド文学を代表する文学者のひとり、チェスワフ・ミウオシュ(1911~2004)は、その生涯にかかわった出来事や、人びととの出会いについて、印象深い文章を数多く遺している。それらの作品は、東欧出身の知識人によって語られた20世紀史の証言としても読むことができる。この授業では、断章形式で書かれた回想的な省察をテーマのアルファベット順に並べたミウオシュの著作をとりあげる。</p> <p>Czesław Miłosz, Abecadło, Kraków: Wydawnictwo Literackie, 2001.</p> <p>授業(前期15回)は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の語彙や文体に親しむとともに、ポーランドの歴史や文化についての理解を深めることを目指す。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業中の訳読を対象とする平常点の評価にもとづいて、到達目標に示した諸点をふまえて評価する。											
【教科書】											
授業の進度に応じてテキストのコピーを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[授業外学習(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		吉井 秀夫 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		百済の考古学									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮三国の中でも、百済は日本と密接な関係にあったことが知られている。また、最近の百済に関係する遺跡の発掘調査では、古代東アジア世界の地域間関係を知る手がかりとなる、さまざまな新発見が続いている。本講義は、そうした最近の百済考古学の研究状況を紹介し、その歴史的意義を検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>百済の考古学に対する基本的な知識を得る。 東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究する視角・方法を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下のような順序で講義を進める</p> <p>第1回 百済考古学の研究史(1)</p> <p>第2回 百済考古学の研究史(2)</p> <p>第3回 漢城百済の王都</p> <p>第4回 考古学からみた漢城時代の中央と地方(1)</p> <p>第5回 考古学からみた漢城時代の中央と地方(2)</p> <p>第6回 熊津・サビ百済の王都と寺院(1)</p> <p>第7回 熊津・サビ百済の王都と寺院(2)</p> <p>第8回 熊津・サビ百済の王都と寺院(3)</p> <p>第9回 熊津・サビ時代における百済王陵(1)</p> <p>第10回 熊津・サビ時代における百済王陵(2)</p> <p>第11回 百済における横穴式石室の展開(1)</p> <p>第12回 百済における横穴式石室の展開(2)</p> <p>第13回 百済の冠・沓をめぐって</p> <p>第14回 百済の滅亡と亡命百済人の行方</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点評価(小レポートなど) 約30%</p> <p>学期末レポート 約70%</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義内容をよく理解するためには、朝鮮半島の地理的環境や朝鮮史の大まかな流れを勉強してもらいたい。朝鮮語を学ぶことにより、講義の理解度はさらに高まるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		吉井 秀夫 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮半島瓦セン研究									
【授業の概要・目的】											
朝鮮半島から出土した瓦センのうちいくつかの例を取り上げ、実物資料を観察しながら、その分析方法と歴史的評価について検討をおこなう。											
【到達目標】											
朝鮮半島から出土した瓦センの検討を通して、考古資料を観察・記録・解釈するための基本的な知識と方法を身につける 東アジア的な視角から瓦セン研究を進めるための知識と方法を身につける											
【授業計画と内容】											
第1回 朝鮮半島瓦センの研究史 第2回 平瓦の製作技術をめぐって - 佐原真「平瓦桶巻作り」を読む 第3回 大韓民国の平瓦桶巻作りの民俗例 第4回 朝鮮半島における平瓦製作技術の変遷に関する論点整理 第5回 朝鮮半島の瓦の観察 第6回 朝鮮半島の瓦の観察結果の検討 第7回 朝鮮半島における文字瓦(1) 第8回 朝鮮半島における文字瓦(2) 第9回 朝鮮半島における文字瓦(3) 第10回 朝鮮半島におけるセンの観察 第11回 朝鮮半島におけるセンの観察結果の検討 第12回 楽浪郡・帯方郡センの製作技術 第13回 高句麗センの製作技術 第14回 高句麗瓦の製作技術 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価(瓦観察報告など) 約40% 学期末レポート 約60%											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義中、数回にわたって瓦の観察を行ってもらい、その成果報告をもとに講義を進めるので、観察した瓦に関連する学習、および観察成果のレポート作成などをする必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		岡村 秀典 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古代の考古学的研究									
【授業の概要・目的】											
中国には三千年の漢字文化があり、伝世文献のほか、甲骨・金文・簡牘などの出土文字資料が近年ますます増加している。本講義では、中国古代（殷周・秦漢時代）の考古資料について、そうした史資料を参考にしながら、古代に生きた人間の営みを考える。											
【到達目標】											
考古資料の外形とその変化を追求するだけでなく、中国古代のさまざまな史資料を参考にしながら、それを作り使った人間の営みを探求し、人文学としての考古学を展望する。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて適切に決める。前期は中国における国家形成の考古学的研究について、自著での到達点を概説しつつ、中国や欧米における新しい研究を補足し、今後の展望を示す。											
第1回 本講義の視座と問題意識											
第2回 植物考古学からみた国家形成期の農業動態（1）											
第3回 植物考古学からみた国家形成期の農業動態（2）											
第4回 植物考古学からみた国家形成期の農業動態（3）											
第5回 動物考古学からみた国家形成期の畜産動態（1）											
第6回 動物考古学からみた国家形成期の畜産動態（2）											
第7回 動物考古学からみた国家形成期の畜産動態（3）											
第8回 古代王権と宮殿・玉器・青銅器（1）											
第9回 古代王権と宮殿・玉器・青銅器（2）											
第10回 古代王権と宮殿・玉器・青銅器（3）											
第11回 古代王権と宮殿・玉器・青銅器（4）											
第12回 古代の戦争と国家形成											
第13回 まとめ - 中国古代の礼制と王権（1）											
第14回 まとめ - 中国古代の礼制と王権（2）											
第15回 定期試験											
第16回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

定期試験（筆記）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

岡村秀典 『中国文明 農業と礼制の考古学』（京都大学学術出版会）ISBN:4876988366

[授業外学習（予習・復習）等]

日頃から歴史だけでなく、思想文化にも関心をもち、異文化に対する理解を深めておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		岡村 秀典 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古代の考古学的研究									
【授業の概要・目的】											
中国には三千年の漢字文化があり、伝世文献のほか、甲骨・金文・簡牘などの出土文字資料が近年ますます増加している。本講義では、中国古代（殷周・秦漢時代）の考古資料について、そうした史資料を参考にしながら、古代に生きた人間の営みを考える。											
【到達目標】											
考古資料の外形とその変化を追求するだけでなく、中国古代のさまざまな史資料を参考にしながら、それを作り使った人間の営みを探求し、人文学としての考古学を展望する。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて適切に決める。後期は漢代の銅鏡とその銘文について、自著での到達点を概説しつつ、中国や欧米における新しい研究を補足し、今後の展望を示す。											
第1回 鏡はどのように使われたか（1）											
第2回 鏡はどのように使われたか（2）											
第3回 鏡はどのように使われたか（3）											
第4回 鏡の銘文と文学（1）											
第5回 鏡の銘文と文学（2）											
第6回 鏡の銘文と文学（3）											
第7回 銅鏡からみた芸術のはじまり（1）											
第8回 銅鏡からみた芸術のはじまり（2）											
第9回 銅鏡からみた芸術のはじまり（3）											
第10回 銅鏡からみた芸術のはじまり（4）											
第11回 銅鏡からみた芸術のはじまり（5）											
第12回 銅鏡からみた芸術のはじまり（6）											
第13回 銅鏡からみた芸術のはじまり（7）											
第14回 まとめ - 古代から中世への手工業の変容											
第15回 定期試験											
第16回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

定期試験（筆記）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

岡村秀典 『鏡が語る古代史』（岩波新書）ISBN:4004316642

[授業外学習（予習・復習）等]

日頃から歴史だけでなく、思想文化にも関心を持ち、異文化に対する理解を深めておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 下垣 仁志 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		初期文明の比較考古学 社会政治組織篇									
【授業の概要・目的】											
<p>文明への関心は、国内外を問わず依然として高い。かつては比較文明論が世間の耳目を集め、近年では人類史を総括的に把握しようとする体系的文明史への関心が高まっている。本講義では、『Understanding Early Civilizations』(B.Trigger,2003)を導きの糸として、世界各地で誕生した初期文明を俎上に載せ、日本からは古墳時代社会をとりあげつつ、社会政治組織面の比較検討を概括的にこなう。</p>											
【到達目標】											
<p>各学問分野の研究が深化すると、必然的に個人でカバーできる領域が狭くなり、全体への見通しが狭くなってしまふ。本講義では、体系的な比較研究の咀嚼をつうじて、幅広い視野と多彩な史資料の操作法を理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回.本講義の梗概 第2回.初期文明の内容と先行研究 第3回.初期文明研究の限界と課題 第4～7回.古墳時代の社会とその特質 第8回.都市国家と領域国家 第9～13回.社会政治組織の比較考古学 階級・王位・都市・軍事 第14回.総括 第15回.まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートにより成績を評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

B.Trigger 『Understanding Early Civilizations』 (Cambridge University Press) ISBN:13: 978-0521705455
B.G.トリッガー著(下垣仁志訳) 『世界の初期文明』 (同成社) ISBN:978-4-88621-814-8

[授業外学習(予習・復習)等]

古代文明に関する情報を、書籍等をつうじて意欲的に吸収しておくこと。博物館や展覧会に積極的に足を運び、実物資料を目にしておくとなおよい。

(その他(オフィスアワー等))

事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 下垣 仁志 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		初期文明の比較考古学 経済・総括篇									
【授業の概要・目的】											
<p>人類がかつて育み、現在も世界各地で育まれている多様な文明・文化を理解することは、人類社会の来し方と行く末を考えるうえできわめて重要である。とくに誕生期の諸文明は、人類社会の固有性と普遍性を究明する手がかりをあたえてくれる。本講義では、文字史料の少ない誕生期の諸文明を俎上に載せ、日本からは古墳時代社会をとりあげつつ、経済面・象徴面での比較検討を概括的におこない、比較考古学の意義を明らかにする。</p>											
【到達目標】											
<p>初期文明の比較検討をつうじて、人類社会の普遍性と固有性を史資料に即して理解できるようになる。日本列島で育まれた社会・文化・文明を、世界の諸社会・文化・文明と関連づけつつ理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回.本講義の梗概 第2回.初期文明の概要 第3回.古墳時代社会の概要 第4回.文明と国家 第5回.経済組織の比較考古学 第6～7回.食糧生産・土地所有 第8～9回.交易と工芸 第10回.象徴・世界観の比較考古学 第11～12回.モニュメント 第13回.宇宙観と祭儀 第14回.総括 第15回.まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートにより成績を評価する。											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

B.Trigger 『Understanding Early Civilizations: A Comparative Study』 (Cambridge University Press)

ISBN:13: 978-0521705455

B.G.トリッガー著(下垣仁志訳) 『世界の初期文明』 (同成社) ISBN:978-4-88621-814-8

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で紹介する古代文明に関する書籍や論文を積極的に読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文化財総合研究センター 助教 文学研究科		伊藤 淳史 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		弥生土器編年研究の現状と課題 - 近畿～東海地方を中心とした -									
【授業の概要・目的】											
<p>土器編年の研究は、弥生時代の研究にとっても、相対的な時間軸を設定する基礎作業として他の時代と同様な重要性をもつものである。また同時に、その作業過程での土器資料の詳細な観察や考察は、時間軸にとどまらない、生活様式や社会構造の変化、集団間関係などを読み取る土器研究への展開へとつながるものである。本講義では、このような性格をもつ弥生土器の編年研究を中心としたこれまでの流れについて、研究史上の重要文献や言説をとりあげながら時系列的な整理をおこない、現状と課題について認識を深める。なおその際、おおむね1970年代以降の、列島各地における発掘調査や出土資料が激増して以降の研究と課題については、おもに近畿地方と東海地方を対象としていくこととする。</p>											
【到達目標】											
<p>弥生時代研究の基礎分野の一つである土器編年の研究について、その研究の歩みと基本的特性が理解できるようになる。また、その理解を通じて、現在の研究動向と課題が的確に認識され、考古学調査者や研究者として資料を活用する実践的能力を養うことができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画で講義を進める予定であるが、指示された関連文献については事前に熟読していることを前提にして、随時受講者各自に発表や意見を求め、議論をすることを通じて理解や問題意識を深めていく形態を予定している。</p> <p>そのため、受講者数や各自の問題関心、そして理解状況等に応じて、それぞれの単元回数や内容は柔軟に調整する。</p> <p>* 期末試験については、設定された課題を受講者各自が発表し、講師および受講者間で意見交換するような形態を予定している。状況によりフィードバック回もそれに充当させる。</p>											
<p>第1回：導入（講義の計画や方針、参考文献の説明等） 第2回：「弥生時代」とは？（基本事項の確認） 第3・4回：弥生土器編年のあゆみ（その1） - 列島編年網の構築と『唐古』に至るまで - 第5・6回：同（その2） - 戦後の弥生時代研究と『弥生式土器集成』の役割 - 第7・8回：同（その3） - 70年代以降の資料増加と地域研究の深化 - 第9・10回：近畿地方における弥生土器研究の現状と課題 第11・12回：東海地方における弥生土器研究の現状と課題 第13回：弥生土器研究を通じた近畿 - 東海地方間関係の検討 第14回：まとめと展望 第15回：期末試験* 第16回：フィードバック*</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

期末試験が70点（研究史や研究現状の理解と資料の適切な活用、という到達目標の達成度）、各回の講義への参加熱意が30点、の比率で評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

金関恕・佐原眞編 『弥生文化の研究 3・弥生土器 』（雄山閣）ISBN:4-639-00574-1

金関恕・佐原眞編 『弥生文化の研究 4・弥生土器 』（雄山閣）ISBN:4-639-00689-6

[授業外学習（予習・復習）等]

必要文献は講義中に適宜指示する。授業内容に記載のように、この文献は事前に熟読し、不明事項は調べておくことを求める。

（その他（オフィスアワー等））

参加型・課題解決形の講義を志向しています。テーマである弥生土器研究史や研究方法とあわせて、その研究が為された時代背景や関連分野の動向にも積極的に関心を寄せ、発言することを歓迎します。

なお、第1回目の講義において、以後の講義計画と方針を協議しながら固めたいと考えますので、聴講希望者は必ず出席して下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		天理大学 文学部 准教授 橋本 英将 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		考古学と文化財科学									
【授業の概要・目的】											
<p>文化財の保存修復に関する歴史・基本的な考え方を解説したうえで、実際の保存修復における、考古学的視点と自然科学分析の協調の必要性を、実例をもとに解説する。また、日本古墳時代、南レヴァント青銅器時代・鉄器時代の研究例をもとに、考古学的課題の解明に自然科学分析が現在どのような役割を果たしているのかを概観し、考古学と自然科学分析の協業のあり方について検討をおこなう。</p>											
【到達目標】											
<p>出土金属製品を中心とした文化財の保存修復について、考え方と実践方法に関する理解を深められる。考古学的課題の解決に資する主要な自然科学分析の基礎的な理解が得られる。自然科学分析をどのように活用し、多方面の専門家とどのように協業してゆくべきかについて、実践にあたっての指針が得られる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のようなプランで講義を進める。ただし、講義の進み具合や受講者の関心内容などに応じて、順序やテーマを変更することがある。</p> <p>1．文化財の保存修復 第1週：文化財科学の歴史 第2週：主要な自然科学分析 第3週：出土金属製品の保存修復 第4週：土器・伝世品等の保存修復</p> <p>2．考古学研究と自然科学分析 日本・西アジアの事例より 第5-6週：製作技法の研究 第7-9週：産地同定 第10-11週：金属学的研究 第12-13週：年代測定 第14週：人骨の年齢推定 第15週：フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義) (2)へ続く -----											

考古学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（20％）および学期末のレポート（80％）により成績を評価する。

[教科書]

使用しない

使用しない

授業の進度に応じて適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

講義で取り上げる論文、研究書に眼を通しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

講義後に質問を受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 木立 雅朗 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		窯業考古学の課題と展望について									
【授業の概要・目的】											
窯業の中でも、土器・陶磁器の生産に関わる考古学研究の課題とその展望について検討する。粘土の採取から使用・廃棄に至る土器・陶磁器のライフヒストリーを俎上にあげ、詳細な遺物・遺構観察・実験民俗調査の3つの方法から総合的に検討する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・土器・陶磁器の製作技術・焼成技術の基本的な知識を理解する。 ・土器・陶磁器の分析・実験・民俗調査から、必要な情報を読み取る力を養う。 ・土器・陶磁器の検討から、考古資料のライフヒストリーの分析方法を身につける。 											
【授業計画と内容】											
第1回 「窯業考古学」とはなにか 第2回 窯業考古学の研究史と課題 第3回 粘土採取と調整 第4回 製作技術の展開1-粘土紐積み上げ技法と「轆轤」成形 第5回 製作技術の展開2-「刷毛目技法」と「叩き技法」 第6回 焼成技術の展開と課題1-野焼きの2タイプと煙道付き炉穴の課題- 第7回 焼成技術の展開と課題2-窯の特性-穴窯・「平窯」・煙管状窯・小型三角窯- 第7回 使用と廃棄に関わる課題 -小林正史氏の一連の研究から- 第8回 縄文土器から弥生土器へ-製作技術・焼成技術・使用方法の関連- 第8回 「刷毛目技法」と「叩き技法」の効果と意味 第9回 小鹿田焼の技術-3種類の「轆轤」挽き上げ技法- 第10回 「轆轤」の技術と粘土紐巻き上げ技法 第11回 大甕に関わる技術 須恵器・越前焼・唐津焼きの特徴と展開 第12回 須恵器窯構造の展開 第13回 瓦窯構造の展開 第14回 窯業科学と窯構造 第15回 窯業考古学の展望											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義) (2)へ続く -----											

考古学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点および学期末のレポートにより成績を評価する。
平常点50%、レポート50%。

[教科書]

使用しない
基本的にレジュメを中心に講義を進める。

[参考書等]

(参考書)

窯跡研究会 『古代の土師器生産と焼成遺構』 (真陽社)
窯跡研究会 『古代窯業の基礎研究 須恵器窯の技術と構造』 (真陽社)
そのほかの参考文献を授業中に適宜紹介する。

[授業外学習(予習・復習)等]

田辺昭三『陶邑古窯址群I』、大橋康二『肥前陶磁』などでは、単純な土器編年研究ではなく、土器の形態と器種組成・窯構造・製作技術・窯の分布などがセットになって変化していることが明らかにされている。単なる編年研究に止まらない重要な研究であり、その部分を事前に学んでおいてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

その他(オフィス・アワー等)
授業計画は授業の進行状況に応じて変更されることがある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文化財総合研究センター 准教授 千葉 豊 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		縄文土器研究法									
[授業の概要・目的]											
<p>今日、縄文文化・社会の研究は多様化しつつあるが、そのような研究状況においても、土器研究は縄文時代を理解するための根幹を占め続けている。土器を用いて、時空断面における最小の単位＝型式を設定し編年研究を進展させることで、縄文時代研究の土台を構築してきた。縄文土器がもつ多様な情報をいかに読み解くのか、そして得られた情報を縄文文化・縄文社会の解明にどのようにリンクさせていくのかが今日の縄文研究における重要な課題であると言える。本講義は、講師がおこなってきた研究例を中心に解説し、縄文土器の研究法を批判的に検討する。</p>											
[到達目標]											
縄文土器の研究方法を理解・習得し、自身の研究を遂行する能力の向上をはかる。											
[授業計画と内容]											
<p>以下に記すテーマに関して、授業をおこなう。</p> <p>縄文土器研究史（第1回～第3回） 土器の製作 - 粘土 / 混和材（第4回・第5回） 土器の製作 - 成形 / 整形 / 施文（第6回・第7回） 年代と地域を読む - 後期初頭の事例（第8回・第9回） 年代と地域を読む - 後期前葉の事例（第10回・第11回） 年代と地域を読む - 後期中葉の事例（第12回・第13回） 分類から系統へ - 土器の祖先子孫関係を探る（第14回・第15回）</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（50％）とレポート（50％）											
[教科書]											
プリントを配付し、それにもとづき授業を進める											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
<p>縄文土器・縄文時代に関する概説的知識は身につけているものとして授業を進めるので、そうでない受講生は縄文土器・縄文時代に関して、概説書などで予習をしておくこと。授業において多数の文献（論文）を掲げるので、そうした論文をできるだけ精読してもらいたい。</p>											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38											
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科				非常勤講師 金 宇大 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		古代日朝交流の考古学											
【授業の概要・目的】													
<p>古代、特に4世紀から6世紀における日本列島および朝鮮半島諸地域を主な対象とし、考古資料の分析から地域間交流の実態解明にいかなるアプローチが可能かについて講述する。講義では、当該時期における交流・交渉を考える上で重要な、いくつかの具体的なトピックを紹介・解説しつつ、現状の問題点について整理していく。</p>													
【到達目標】													
<p>古墳・三国時代の研究が、日韓両国でそれぞれどのように取り組まれているのかを把握し、その調和的な理解のためにどういった課題を解決する必要があるのかを認識する。</p>													
【授業計画と内容】													
<p>基本的に以下のプランに沿って講義を進める。ただし、講義の進み具合や受講者の関心内容などに応じて、各テーマの内容や順序、時間配分を変更することがある。</p>													
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 遺物研究からひもとく交流史 (第1回) 2. 日本の古墳時代研究と韓国の三国時代研究 (第2回) 3. 副葬品の分析方法とその解釈 (第3回) 4. 古墳・三国時代の実年代に関する諸問題 (第4回～第5回) 5. 金海大成洞古墳群と東アジア情勢 (第6回～第7回) 6. 日本列島で出土する金工装飾品の製作主体 (第8回) 7. 倭系甲冑を出土する朝鮮半島南部の古墳 (第9回～第10回) 8. 朝鮮半島の前方後円墳の評価 (第11回～第12回) 9. 古墳時代後期における外来系遺物の系譜認識 (第13回～第14回) 10. フィードバック (第15回) 													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点及び達成度】													
平常点(40%)と学期末のレポート(60%)により成績を評価する。													
----- 考古学(特殊講義) (2)へ続く -----													

考古学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

高田貫太 『海の向こうから見た倭国』 (講談社) ISBN:4062884143

その他関連する書籍、論文などは講義内で紹介する。

[授業外学習(予習・復習)等]

講義の中で適宜紹介する文献に目を通すことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 橋本 達也 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古墳時代の中心 周縁関係、広域交流論 九州南部を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>古墳時代は、近畿中央政権を軸に汎日本列島の規模での政治・社会的共通圏が形成される、まさに国家形成期である。その象徴が前方後円墳を代表とする古墳であるが、古墳受容のあり方には地域ごとに多様性がある。とくに古墳を造る社会と造らない社会が交錯する境界域の様相には、そもそも古墳を造ることの本質的な意義とは何かという課題を明らかにしうる鍵がそこに内蔵されている。</p> <p>本講義では、九州南部の古墳時代社会像・民族論などに関する研究を踏まえて、南島や東北地方などとの広域比較を視野に入れつつ、古墳時代の中心 周縁・交流の観点から、日本の古代国家形成の道程を多角的に理解することを目ざしたい。</p>											
【到達目標】											
<p>豊富な情報をもつ古墳墓の考古学的分析を通じて社会を復原する手法、とくにここでは遺跡・遺物に基づいた地域間交流、社会領域の研究について学ぶ。</p> <p>広域分布する古墳の展開と変遷、各地域での実態を踏まえて、古墳時代社会の共通性と多様性を理解する。また、文字史料や中央史観によらない多様な視点について学ぶ。</p> <p>古墳時代には地域性を包含しつつ、広域の政治的一体性が生み出され、展開する過程に、国家形成の実像を読み取り、「日本」という枠組みについて考える。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 古墳時代における分布論・境界・政治領域研究史 2. 南の境界の研究史、ボカシ地域論批判 3. 古墳と隼人論、考古学と文献史の関係 - 隼人の墓制論批判 - 4. 九州南部の古墳と多様な墓制 5. 古墳の実像 - 神領10号墳・岡崎18号墳・奥山古墳の調査成果 - 6. 九州南部の古墳時代社会 - 生活様式・広域交流 - 7. 島内139号地下式横穴墓の調査成果と古墳時代中～後期社会 8. 地下式横穴墓とは何か 9. 甲冑が語る中央 地域間関係 10. 古墳時代の鉄器生産と九州南部 11. 種子島広田遺跡と古墳社会 12. 南島貝製品流通と古墳時代ネットワーク 13. 南島と古墳・古代国家、民族形成の観点から - 南島ルート幻想論 - 14. 九州南部、東北南部、対馬海峡、周縁域の比較 15. 古墳時代の中央政権と地域間関係、広域交流の変遷 - 古墳から古代国家へ - 											
----- 考古学(特殊講義) (2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポート(60%)

平常点(40%)

【教科書】

使用しない
講義の際にプリント配布。

【参考書等】

(参考書)

藤沢敦『倭の周縁における境界と相互関係』(考古学研究48-3)

橋本達也『古墳築造周縁域における境界形成』(考古学研究58-4)

上野祥史編『古代東アジアにおける倭世界の実態』(国立歴史民俗博物館研究報告211)

【授業外学習(予習・復習)等】

本講義では九州南部を軸とした古墳時代の地域間関係を主題としますが、その理解には古墳時代の中央政権の存在を前提とした政治史に関する基礎的な知識、理解が必須です。また古墳副葬品に関してもあわせて、概説的知識は踏まえて臨んでください。

(その他(オフィスアワー等))

講義時間内に質疑時間を設ける予定です

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 向井 佑介 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国初期仏教寺院の考古学的研究									
[授業の概要・目的]											
<p>インドに起源する仏教は、漢代に中国へと伝えられ、「浮図祠」などと呼ばれる寺院建築が建立されたことが文献史料に記載されている。一方、考古学的調査によって確認された寺院遺跡は5世紀後葉の例がもっともふるく、それ以前の状況はわずかな文献史料と図像資料から推測しうるにすぎない。この講義では、おもに5世紀までの考古資料・図像資料・文献史料をもとに、仏教寺院と仏塔の具体的様相をさぐる。それにより、中国初期仏教寺院の成立過程とその特質を明確にすることを目指す。</p>											
[到達目標]											
<p>仏教東伝の過程においては、中国に伝来し、中国で変容をとげた仏教文化が、東アジア各地へとひろがっていった。この講義では、仏教寺院の遺跡と遺物を主要な題材として、仏教寺院の中国的変容の過程を理解することを目的としている。また、この時代の仏教寺院を研究するためには、考古資料のみならず、文献史料・図像資料をあわせて検討することが必要であり、歴史考古学・美術考古学の方法論や課題を学ぶことを本講義のもうひとつの目的としたい。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国初期仏教寺院研究の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> 中国初期仏教寺院の研究史と課題 中国仏教考古学の資料と方法 2. 中国初期仏教寺院の探求 <ul style="list-style-type: none"> 中国初期仏教図像の検討 「浮図祠」の建築 楼閣式仏塔の思想 3. 北魏前期仏教寺院の遺構と遺物 <ul style="list-style-type: none"> 北朝の瓦編年 雲岡石窟の寺院景観 方山永固陵と思遠仏寺 思燕仏図の発見 懷朔鎮仏寺の探索 北魏舍利石函と埋納品 4. 北魏仏塔の図像と寺院空間 <ul style="list-style-type: none"> 雲岡石窟の仏塔意匠 北魏石塔の研究 仏塔と寺院空間 まとめ 											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点(小レポートなど)20%と学期末レポート80%をあわせて評価する

[教科書]

毎回レジユメを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

日頃から自身の専門以外のさまざまな学問分野に目を向けるとともに、学内外の博物館施設などを利用して積極的に実物資料を見学するよう努めることが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 向井 佑介 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国南北朝寺院の考古学的研究									
【授業の概要・目的】											
<p>東魏の楊銜之『洛陽伽藍記』巻五によれば、6世紀前半の北魏洛陽には1,367の寺院があったという。その数字にはいくらかの誇張があるとしても、当時の皇帝や王侯貴族がさかんに仏教を信仰し、北魏の洛陽や東魏・北齊のギョウ城、南朝の建康など各地で無数の寺院が建設されたことは、諸書の記載に明らかである。それらのなかで、考古学的発掘によって明確な寺院の遺跡が確認されているのは数例しかないものの、出土した遺構と遺物から当時の仏教寺院の様相の一端をうかがうことができる。この講義では、中国の南北朝時代後期、およそ6世紀頃の仏教寺院を対象とし、その遺跡と遺物のもつ意義を明確にするとともに、隋唐時代への展望と朝鮮半島や日本列島への伝播の過程についてさぐることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>中国南北朝の仏教寺院は、朝鮮三国を介して日本の飛鳥時代寺院にも影響をおよぼしたと考えられている。この講義では、近年の考古学的調査によって次第が明らかになってきた南北朝時代後期の寺院の具体的様相とその意義を理解することを目標とする。同時に、仏教寺院を中心とした歴史考古学や美術考古学・建築考古学の方法と成果について理解を深めることを目指す。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国南北朝寺院研究の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> 中国南北朝寺院の研究史と課題 中国南北朝寺院考古学の資料と方法 2. 北魏洛陽の仏教寺院 <ul style="list-style-type: none"> 漢魏洛陽城の考古学 北魏洛陽の都城空間と寺院 北魏洛陽永寧寺の発掘 龍門石窟の開鑿 洛陽周辺の石窟寺院 3. 東魏・北齊の仏教寺院 <ul style="list-style-type: none"> 東魏・北齊都城の考古学的発見 趙彭城仏寺の発掘 核桃園遺跡の発掘 4. 南朝仏教寺院の探索 <ul style="list-style-type: none"> 文献にみる東晋南朝の仏教寺院 南朝の寺院遺跡と遺物 5. 隋唐時代への展望 <ul style="list-style-type: none"> 双塔伽藍の成立 隋唐寺院の伽藍配置 仏教寺院の東方伝播 											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（小レポートなど）20%と学期末レポート80%をあわせて評価する。

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

日頃から自身の専門以外のさまざまな学問分野に目を向けるとともに、学内外の博物館施設などを利用して積極的に実物資料を見学するよう努めることが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。